

私立大学図書館協会

研究助成報告書

「ラーニングコモンズの要素分析 ― 日本における導入を前提として ―」
(第2版)

西南学院大学図書館

相田 芙美子

渡邊 浩之

小川 ゆきえ

山下 大輔

古庄 敬文

目次

I 研究の目的	1	IV 導入事例(小規模図書館)	6
II 研究の方法、経緯	1	1. 公立はこだて未来大学	
III LCの要素(設備および人的サポート)	2	2. Pine Manor College	
a. テクノロジー支援		3. Simmons College	
(1)PCスペース		4. 京都大学	
(2)キオスク端末		5. 東京大学	
b. 利用者支援		V 導入事例(中規模図書館)	16
(1)テクノロジーデスク		1. 神田外語大学	
(2)レファレンスデスク		2. お茶の水女子大学	
(3)貸出、返却デスク		3. 東京女子大学	
(4)オンラインサポート		4. 大手前大学	
(5)ライティングデスク		5. California State University San Marcos	
(6)教員支援デスク		6. Elon University	
c. 共同作業環境		VI 導入事例(大規模図書館)	33
(1)グループ学習室		1. Brooklyn College	
(2)オープンディスカッションスペース		2. New York University	
d. 教育支援		3. University of Southern California	
(1)電子教室		4. Georgia Institute of Technology	
(2)教員支援センター		5. Emory University	
(3)ライティングセンター		6. University of North Carolina at Charlotte	
e. 視聴覚スペース		VII ラーニングコモンズ構築例	48
(1)スタジオ		1. 小規模図書館の場合	
(2)ホール		2. 中規模図書館の場合	
(3)視聴、編集スペース		3. 中規模図書館の場合	
(4)プレゼンテーションスペース		VIII まとめ	63
f. 滞在支援施設		参考資料	
(1)カフェ			
(2)飲食スペース			
(3)ラウンジ			
g. 展示、イベント			
(1)プレゼンテーションスペース			
(2)ギャラリー			
(3)ラウンジ			

I 研究の目的

現在、日本の大学では、講義・学習の変化により、アクティブラーニングの実施およびグループ学習の機会が増加している。そして、これに対応する施設としてラーニング・コモンズ（以下「LC」という。）が注目されている。

この研究の目的は、LC に挙げられるような多様な学習環境を導入する際の、いくつかのモデルを提供することにある。

海外では実施例が増え、施設・サービスについてのベスト・プラクティスが評価、公表されてきている。しかし、日本ではLCの事例はまだ少ない。各館が導入を検討する際の材料としては情報が乏しい。特に、学生数が少ない中・小規模の大学では独自の調査が難しい場合もあるだろう。

そのため、今回の研究では、LC（または相当の学習施設・サービス）の導入により、大学の学習支援環境・体制の強化を検討したい大学および図書館員のために、国内外の事例を紹介し、具体的な構築例を提示するものとする。

II 研究の方法、経緯

LC または、それに相当する教育施設が整備された国内外の事例の現地調査、インタビュー、文献調査などから LC に必要な要素を分析する。さらに、導入事例の分析を行い、日本における LC のモデルケースの提案を行う。

今回の助成金を利用して視察した施設は以下のとおりである。

(国内)

東京大学アクティブラーニングスタジオ KALS
公立はこだて未来大学
大手前大学図書館メディアライブラリーCELL
神田外語大学 SACLA
京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館 環 on

(米国)

Simmons College Beatley Library
Pine Manar College Anneberg Library
Brooklyn College Library
New York University Elmer Holmes Bobst Library

また、研究助成金を利用していないが、過去に以下の館の視察を行っている。

(国内)

お茶の水女子大学附属図書館
東京女子大学図書館

(米国)

University of Southern California Library

California State University San Marcos Library
Georgia Institute of Technology Library
Emory University Library
The University of North Carolina at Charlotte J.Murrey Atkins Library
Elon University Carol Grotnes Belk Library

Ⅲ LCの要素(設備および人的サポート)

先行研究及び現地調査により、LCを構成する要素については主に以下の設備があげられる。これらを大学の立地条件、学内設備、教育・研究内容などを勘案し組み合わせることが必要となる。なお、以下の要素はカテゴリーとして大きく「テクノロジー支援」「利用者支援」「共同作業スペース」「教育支援」「視聴覚スペース」「滞在支援施設」「展示、イベント」の7つに分けて要素の細分化を試みた。

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース

IT環境が発展している現代において、LCの中核をなす施設となる。PCは多くの大学のPC教室に見られるように整然と配置されることは無く、LCの設計目的によって様々な配置がなされている。

個人での利用、複数人数での利用、スキャナーやプリンターといった周辺機器、複数ディスプレイなどをバランスよく配置する。特に資料を広げる利用者について十分なスペースを確保する。また、OS、アプリケーションソフトも一つに絞るのではなく複数導入することが望ましい。

スペースに限りがある場合には、ノートPCの貸出サービスを実施し、無線LANを整備することも有効である。

(2)キオスク端末

LC入口付近のメールチェック等を目的とする短時間利用のPCコーナー。利用可能時間を5～10分程度と規定しておく。これは限られたPCを用途別にわけること、効率的な運用を促進することからも必要となる。また、立ったままで利用するスタイルとし、ログインも不要にするとよい。

b. 利用者支援

LCの施設、設備を活用するために利用者へのサポートを提供するサービス。目的によりデスク等を細分化すると次のとおりとなり、分割したほうがきめの細かいサービスが出来る。

(1)テクノロジーデスク

PCや各種機器、ソフトウェアの利用方法、トラブルへの対応が主業務である。スタッフは、施設内に設置されている機器についての総合的な知識、トラブル時の対応方法についての情報を収集しておく。

また、IT部門等の学内の他の施設でどのような設備、サービスが提供されているか把握しておく必要もある。LC内で対応が出来ない場合には対応を引き継ぐ必要があるからだ。

設置場所だが、レファレンスデスクとの綿密な連携が必要となるので、その近くに設置しておいた方がよい。なお、デスクでは、技術的サポートだけでなく、ノートPC、デジタルカメラ、ビデオカメラ等を貸出するサービスも有効である。

高度な支援も必要であるが、プリンタートラブルへの対応等軽微な要望が多い。この為、専門の知識を持った職員および学生スタッフを併用して対応することが望ましい。

(2)レファレンスデスク

これまでの図書館においても提供されてきた伝統的レファレンススペースである。オンラインリソースまで含めた図書館の資料活用をサポートし、利用者のニーズに合わせて LC 内の資源と合わせて活用する方法を紹介することを主眼とする。

最終的には専門の図書館員が回答、指導に責任を持つ体制を整備した上で学生スタッフを活用することが重要となる。LC 内には複数のデスクが設置されることになるが、レファレンスデスクが総合受付としての機能を担うことで、各カウンターへのスムーズな誘導が実現する。クイックレファレンスを含めて、これらの対応には学生スタッフの活用が有効である。

(3)貸出、返却デスク

図書館内に LC を設置する場合には、他のサービスデスクと貸出、返却を担うカウンターを分割して設置する必要がある。同じ場所に対応しようとした場合、目的の異なる利用者の対応を一度に行わなければならない、サービスの効率及び質の低下を招く。

(4)オンラインサポート

学内の他施設や自宅での作業中のサポートを提供する。ツールとしては、電子メール、チャットの利用等がある。

これらのサポートにより、以下のような利点が発生する。①時間・空間的に制約がなくなる。②情報をスタッフ間で共有することが容易となる。③対応ミスや対応漏れの防止につながる。④相談役に教員を巻き込むことが可能となり、講義と直結したサービスを提供できるようになる。⑤カウンターでの相談に気後れする学生への対応が可能となる。

オンラインサポートを補完するシステムとして、Q&A サイト、レファレンス事例データベース、パスファインダー等を提供するとさらに効果的である。

(5)ライティングデスク

3-4. 教育支援(3)ライティングセンター 参照

(6)教員支援デスク

3-4. 教育支援(2)教員支援センター 参照

c. 共同作業環境

学生の議論、共同学習を促進するためのスペース。これらを設置することにより、静かに学習を行うサイレントスペースとの棲み分けを行い、目的に応じて利用者が、不快感を感じることなく学習することが出来るようにする。

(1)グループ学習室

独立した部屋として整備された学習環境。利用規模に応じて 4 人程度の小規模のものから、1 クラスを収容可能な広さのものまで、複数用意しておくことが理想となる。複数設置が難しい場合は、パーティション等で仕切って、人数に応じて可変することが有効である。部屋の内部には、無線 LAN、プロジェクター、スクリーン、視聴覚資料の再生機器、貸出用ノート PC、ホワイトボード、移動が容易なテーブル、椅子等が必要となる。文房具類も必要に応じて貸し出せるようにすると効果的である。

(2)オープンディスカッションスペース

LC 内での作業において、短時間での話し合いを行うために設置されているスペース。グループ学習室のように厳密な管理を行わず、自由に利用できるように配置し、予約なしでいつでも利用可能とする。4人～10人程度の規模を想定するとよい。

無線 LAN、共同で利用できるディスプレイ、移動可能な机、椅子が必要となる。

d. 教育支援

(1)電子教室

LC を利用した講義を行う場合、LC 内に教室を整備しておくことが有効である。一クラスが利用できるスペースと人数分の PC(ノート PC でも可)、プロジェクター、教員用の PC、電子黒板、ホワイトボード、視聴覚資料再生機器等が必要となる。

また、図書館主催の講習会等にも利用することが可能となる。

(2)教員支援デスク

講義の中で IT 機器、ソフトウェアを利用する教員をサポートするセクション。LC においては様々な最新機材を利用することになる。これらを利用した講義内容の構築、講義の資料作成への利用、課題への活用等を促進するのは教員、学部の方では限界があり、一部の教員にとどまる事態が発生する。このような状況を打開するために、高度な知識を持った教員支援専門のスタッフが必要となる。

スタッフは、設備利用の技術情報、サポートの提供、LC を利用した講義のサポートを行い、さらに eラーニングシステムを利用した講義管理も提案できる。

(3)ライティングセンター

LC 外部に既に設置されていることも多い施設。授業のレポート、プレゼンテーション原稿、卒業論文、修士論文、博士論文などを対象とした個別指導を提供する。また、大学の教育内容に応じて英語などの日本語以外の文章への対応も求められる。文章に対する個別指導以外にも、講座の開催、一般的なアドバイスの発信などを行う。

大学において、最終的なアウトプットとしてのレポート、論文の位置付けは大きく、学生が作成するこれらの成果物の質的向上を図ることが、情報収集能力、整理能力、活用能力に直結する。また、日本においても、講義以外の予習・復習が義務付けられることも多くなってきており、講義外の時間帯における相談窓口を設置することが必要となる。これにより、必要な課題や作業に対するサポート、評価を教員以外に分散することが可能となり、教員の負担を軽減し、結果として学生への充実した教育が実施されることにつながる。

必ずしも LC 内部に設置する必要性は無いが、図書館の持つ様々な資料を活用することを想定するならば、物理的に近距離にあることが望ましい。また、LC 内に簡易デスクを設置して出張所を設けることも有効である。

LC 内に設置することを想定する場合、一次対応は学生スタッフで十分である。ただし、広範囲のサポートが必要になってくるため、図書館員、各学部の担当教員のアドバイスが重要となる。当日の報告をメーリングリストや専用システムを用いて共有、蓄積し、学生が対応できなかった場合は、素早いフォローを提供する。学生を常駐させる場合には、各学部から幅広く人員を確保し、どの時間にどの学部(専攻)の学生が対応しているのかスケジュールを公開しておくことも重要となる。

学生スタッフの教育については、図書館員による講習、IT 部門職員による講習、e ラーニング等を利用した講習を事前に提供し、業務開始後は、ノウハウが先輩から後輩へ受け継がれている体制整備を目指す。

3-5. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

写真、動画の撮影、音声の録音を行うことが出来るスペース。スクリーン、撮影・録音・編集機材を設置する。

(2)ホール

映像を上映するための施設。ミニシアターのような施設が多く、映画館のような階段状の配置で大スクリーン及び投影設備が設置されている。映像資料の上映、セミナーの開催等に利用される。

(3)視聴、編集スペース

視聴覚資料を閲覧するためのブースを複数設置する。利用人数が個人利用のものから複数で利用できるものまで用意しておくといよい。さらに新旧あらゆるメディアの取り扱いに対応する必要がある。また、目的に応じて視聴のみのブース、編集機材を取りそろえたコーナーを準備する。編集が可能な端末は、複数人数での利用を想定し、広い作業環境、複数ディスプレイを設置すると効果的である。

(4)プレゼンテーションスペース

3-7. 展示、イベント (1) プレゼンテーションスペース 参照

f. 滞在支援施設

LC は滞在時間が長時間となることが想定されるため、休憩を行う以下のようなスペースの設置が効果的である。これらのスペースにおいても無線 LAN を整備し、ノート PC の利用が可能とするとまた違う形でコミュニケーションが生まれる。

(1)カフェ

店舗タイプのカフェ。飲食物の販売を行う。

(2)飲食スペース

店舗タイプの設置が難しい場合には、飲食可能スペースを設定するだけでも効果がある。また、飲食物の自動販売機を設置するとより利用が促進される。

(3)ラウンジ

自由にくつろげることを想定したエリア。ゆったりとした椅子（ソファ）や音楽、娯楽誌等を配置しておく有効である。

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース

授業、ゼミ、サークルなどの成果を発表するためのスペース。LC 内で作成した成果を、すぐに発表することが可能となる。基本的には、周囲からいつでも見学可能なオープンな場所が好ましい。また、講義以外にも各種セミナーをここで開催することにより、広報効果、飛び入りの参加を促したりすることも期待できる。

(2)ギャラリー

LC での作成物の展示、イベントの開催、地域団体への提供等を目的として設置する。LC の設計コンセプトの根幹にはアクティブラーニングの提供、グループ作業の充実は主要な要素となる。その結果、学内に活動的な複数のコミュニティが発生することが予見される。これらの教員、学生、地域において発生したコミュニティのメンバー交流、コミュニティ同士の交流、大学外部への情報発信といったアカデミックサロンとしての役割を持つスペースが必要となる。特に交流会、発表会のような会合が自主的に実施される雰囲気は、大学におけるアカデミックな活動の素地となる。

(3)ラウンジ

休憩目的で設置したラウンジを、展示スペースとして活用することも可能である。講義やサークルでの作成物の展示等幅広く利用可能である。

IV 導入事例(小規模図書館) 学生数 2,000 人以下

1. 公立はこだて未来大学(2009 年 11 月訪問)

大学概要:2000 年 4 月に開学した公立の単科大学で、全面ガラス張り 5 階建ての建物に学部ほぼ全ての設備が凝縮されている。オープンスペース・オープンマインドというコンセプトにより設計されており、建物の全体が全て見渡せることを目的として、ひな壇状の設計となっている。

特徴的な教育として、プロジェクト学習を実施している。これは、3 年生全員が受講し、十数人の学生で構成される一つのプロジェクトの指導を 2、3 人の教員が担当する。

LC 概要:大学全体が LC の構造となっており、特定の組織があるわけではない。

施設とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

学生は全て仕様を定められたノート PC を所持している。学内には、無線 LAN、情報コンセントが整備され、どこからでもネットワークにアクセスが可能である。また、PC 教室では講義が実施されていない場合は自由に利用可能である。

(2)キオスク端末

学生がノート PC を所持していることもあり、特に端末は設置されていない。

b. 利用者支援

オープンスペース・オープンマインドのコンセプトの基に教員の研究室は全てガラス張りで、いつでも様子を確認することが可能である。また、研究室の前には後述するスタジオと呼ばれる共同作業スペースが展開されており、学生はいつでも教員へ説明を求めることが可能である。このような仕組みが利用者支援の柱となっており、特に特別なデスクは設けられていない。

(1)テクノロジー支援

特に設置されていないが、情報系の教員や教務担当の職員が対応している。

(2)レファレンスデスク

建物内部には、情報ライブラリーと呼ばれる図書館がある。図書館は学内でサイレントスペースとしての役割を担っている。また、カウンターが設置され、レファレンスも担当している。

(3)貸出、返却デスク

情報ライブラリーのレファレンスデスクと同一のカウンターで対応している。

(4)オンラインサポート

なし。

(5)ライティングデスク

なし。

(6)教員支援デスク

なし。

(7)電子教室

講義用の PC 教室はあり。講義が行われていない際には自由に利用可能。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

グループ学習教室が設置されている、移動可能なイス、テーブル、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーンで形成され、グループの人数や講義の目的に応じて配置をすぐに変更することが可能である。

(2)オープンディスカッションスペース

各所に 10 人程度で活動が可能な円形の作業スペースが設置されている。入り口にドアは無く、申込み等は特に必要ない。

また、教員の研究室及び大学院生の研究室は全てひな壇状の建物に集約されており、各研究室の前には自由に利用可能なスタジオと呼ばれるスペースが配置されている。研究室とスタジオを隔てる壁は全て透明なガラスであり、学生はいつでも研究室を覗くことが出来る。スタジオは、卒業研究用のスペースと 1～3 年生用のスペースに分割されている。卒業研究用のスペースは、可動式のパーティションでグループに区切られており、基本的に指導教員の研究室の前に設置されている。ガラス張りの壁をとおして、教員と学生がお互いの様子をいつでも確認できる。1～3 年生用のスペースには、4～8 人程度用のテーブルが配置されており、グループで自由に活動することが出来る。配置は固定されておらず、利用に合わせて毎年変更されている。卒研用のスペースには、研究内容に応じて配置が工夫され、必要な機材が設置されている。活動内容が近いグループの教員は近くの研究室に配置されていることから、学生も自然と共有スペースを形成する場合もある。

d. 教育支援

(1)電子教室

講義用の PC 教室はあり。講義が行われていない際には自由に利用可能。

(2) 教員支援デスク

なし。

(3) ライティングセンター

なし。

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

なし。

(2) ホール

なし。

(3) 視聴、編集スペース

情報ライブラリーの内部には、視聴覚資料の再生機器、編集機材が設置されたブースがある。

(4) プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

学食が設置されており、飲食を行うことが可能である。飲食は学食周辺のスペースに限定されており、その他の部分は禁止となっている。

(2) 飲食スペース

学食周辺には、飲食可能なスペースが設置されている。

(3) ラウンジ

g. 展示、イベント (1) プレゼンテーションスペース 参照

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーションスペース

1階に設置された3つのスペースとして存在している。円形の窪んだ空間であり、ひな壇状になった建物の2階や3階からも見渡すことが出来る。何か面白いことをやっている、自然と人が集まってくる。講義での発表、ゼミでの利用、企業説明会などにも利用される。

(2) ギャラリー

ミュージアムという名称で設置されている。大学で生み出される様々な活動成果を発表するための空間。学びの成果についてもオープンにし、学生同士の共有を図っている。また、地域とコラボレーションしての展示やイベントを行う際にも利用されている。

(3) ラウンジ

なし。

2. Pine Manor College (2010年9月24日訪問)

大学概要: Boston 郊外の西 8 キロの高級住宅街 Chestnut Hill にある 1911 年創立の 4 年制私立女子大学。リベラルアーツ大学で 9 専攻あり、学部生、大学院生あわせて約 500 人。90% の科目で 20 人以下の受講生という、少人数教育を行っている。郊外ということもあり、緑が美しい高原の中のような駅をおりて歩いて 15 分ほどで大学へ到着する。とても静かで落ち着いた雰囲気である。キャンパスは、60 エーカー（144 ヘクタール）もあり、まるで木立の中に大学があるという雰囲気。図書館は、2 階建てで、大学の入り口（警備員が配置されている）近くで学生にとっても便利な場所に位置している。この敷地はもともと資産家の方からの寄附ということで、馬の厩舎の後に図書館が建てられたそうだ。

LC 概要: Annenberg Library は、2 階建てで、館長 1 人、図書館員 3 人という構成である。小規模の大学や短期大学でのモデルになると思われる。

LC は、2 階のロフトに施設が集約されている。螺旋状の階段を上がっていくとすこし照明を落としたロフトで学生が数人利用中であった。PC は、全部で 13 台である。運営の費用が限られているため最新鋭の PC ではなく、モニターがブラウン管だった。OS は XP であり、全ての PC に MS Office がインストールされていた。また、スキャナーがあるので写真やイメージのスキャンも行える。

ここには、担当の図書館員が常駐しており、学生からの PC や MS Office の操作、OPAC やデータベースでの検索、WEB オーサリングの方法から画像編集まで、あらゆることにまさしく、統合された状態でサービスを行っている。

その他の施設として、プレゼンテーション等を行う部屋やホールは図書館内に無理に設置していない。物理的に狭いということもあるが無理にスペースを作っていないため比較的ゆったりした作りとなっていた。また、各所に座り心地が良さそうなソファも準備してあった。

LC とは直接の関係はないが、少ない蔵書を補うためにミニットマン図書館ネットワークという小規模な図書館のコンソーシアム（8 大学図書館、35 公共図書館）の会員となっており、相互利用が可能となっている。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1) PC スペース

PC は、前述のとおり全部で 13 台。その他別棟の 1 階に PC が 3 台ほどおいてある。ここは、24 時間利用可能である。

(2) キオスク端末

特に設定なし。

b. 利用者支援

(1) テクノロジーデスクおよび(2)レファレンスデスク

すべて担当の図書館員が一人常駐しており、学生からの PC や MS Office の操作、OPAC やデータベースでの検索、WEB オーサリングの方法から画像編集まで、あらゆることにまさしく、統合された状態でサービスを行っている。入ってくる学生の PC スキルのレベルに差があり、PC 操作の初歩から教えなければならない場合もあるそうである。このような、PC 等の操作は IT 系の職員が支援するという

場合が多いが、ここでは人数が確保できないため、図書館員が一人でこなしている。様々なスキルが要求されるため日頃からの研鑽が大事とのことである。職員の数は、学生数が少ないので仕方がないかもしれないが、情報処理関係部署と職員が兼担している場合もある。施設については、費用をある程度かけることで解決する。しかし、情熱があって、スキルが高い図書館員が得られるかということは、充実した支援が行えるかどうかということについて欠かせない要件である。

(3)貸出、返却デスク

1階のカウンターで対応

(4)オンラインサポート および(5)ライティングデスク

学習を行う際のアドバイスも行っている。もちろんその他、ライティングのサポートでも何でも行うことあるそう。

(6)教員支援デスク

なし。

(7)電子教室

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

なし。

(2)オープンディスカッションスペース

2階ロフトのLCで行える。

d. 教育支援

(1)電子教室および(2)教員支援デスク

なし。

(3)ライティングセンター

2階ロフトのLCのデスクで対応。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ、(2)ホール、(3)視聴、編集スペース、(4)プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

なし。

(2)飲食スペース

別棟の1階に自販機あり。

(3)ラウンジ

図書館内にソファがおいてあった。

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース

多少無理をすれば、ギャラリーでも利用可能かもしれない。

(2)ギャラリー

入館すると受付があり、その奥の Hess Gallery では学生が作成した美術作品を展示していた。この場所は、公開されているようだ。小さいながらもこのアイディアは取り入れる価値がある。

(3)ラウンジ

図書館内にソファがおいてあった。

3. Simmons College(2010年9月21日訪問)

大学概要: Boston 郊外に位置する 1899 年創設の私立大学である。学部生は約 1,900 人（女性のみ）、大学院生約 3,000 人（男女）が在籍している。キャンパスは、多くの大学が立ち並ぶ大学街の中にある。図書館情報学の大学院を持つことでも有名で、図書館でも多くの学生スタッフが雇用されている。

LC 概要: Information Commons として図書館内に設置されている。蔵書約 25 万冊、2000 タイトルの雑誌を所蔵している。約 5 万冊の e-book、7 万 6 千タイトルの e-journal を提供し、100 以上のデータベースを整備している。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

155 台の PC を設置している。ノート PC40 台の貸出サービスも実施している。無線 LAN も整備されており、持ち込みの PC も利用可能。フロアに設置されている PC は、広い周辺スペースが確保されており、図書館の資料を広げながら学習を行うことが可能である。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

テクノロジー、レファレンス、貸出・返却、ライティングの各デスクが同一フロアに設置されており分業しながら必要に応じて協力する体制が整備されている。利用者にとっては、非常に幅広いサポートがワンフロアで提供されており利便性が高い。約 60 人の学生スタッフが雇用されている。

(1)テクノロジー支援

独立したカウンターが設置されている。専任スタッフ及び学生スタッフ 2 人程度で運営されている。

(2)レファレンスデスク

図書館入口正面に設置されており、レファレンスを提供すると共に、LC の総合案内窓口も兼ねている。専任職員及び学生スタッフで運営されている。レファレンスデスクの学生スタッフは図書館情報

学専攻の大学院生を主として活用している。また、高度なレファレンスに対応するための図書館員専用の個室もあり、落ち着いて相談を受けることも可能である。

(3)貸出、返却デスク

他のカウンターとは別に設置されている。学部生をスタッフとして活用している。

(4)オンラインサポート

電話、メール、チャットシステムでのレファレンスを提供している。

(5)ライティングデスク

訪問した際には、LC 外部にあったが、2011 年にはライティングセンターも図書館外から移転され、学生チューターが特に新生生に向けてアドバイスを行い、ワークショップ等を開催している。特に新生生に向けてライティングの講義の中で、ライブラリアンが教室に出張して講習会を開催しており、1 年間で 350 程度のセッションを行っている。内容としては、基本的な図書館利用方法、データベース利用方法等である。その他、必要に応じて図書館内部でも講習会を開催している。

(6)教員支援デスク

なし。

(7)電子教室

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

14 のグループ学習室が設置されている。無線 LAN、ホワイトボード、プロジェクター等が整備されている。カウンターで事前予約をして利用する。スタート予定時間を 15 分超過しても利用の申し出が無い場合には自動キャンセルとなる。

(2)オープンディスカッションスペース

なし。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。

(2)教員支援デスク

なし。

(3)ライティングセンター

b. 利用者支援 (5) ライティングデスク 参照。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

なし。

(4)プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

なし。

(2)飲食スペース

なし。蓋付きの飲み物は LC 内で飲むことができる。

(3)ラウンジ

なし。

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース

なし。

(2)ギャラリー

なし。

(3)ラウンジ

なし。

(以下の、4と5の事例は LC のある構成要素についての実験的なものである)

4. 京都大学 ^{わおん} 環 on (2009 年 9 月訪問)

大学概要:1897 年創立の 10 学部、17 大学院、14 附属研究所、27 教育研究施設等、6 機構等を擁する国立総合大学。学生数は、22,560 人 (2010 年度)。自由闊達な学風である。環 on のサービス対象は、人間・環境研究科及び総合人間学部であり、学生数は約 1,300 人である。

LC 概要:図書館外の施設である。京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館の分室として、2008 年 4 月に開館した。管理は人間・環境学研究科総合人間学部図書館で行っている。また、開館中 (9 時から 17 時) は、オフィス・アシスタントの大学院生が常駐している。

コンセプトは「創造と学習の場」としての「話せる図書館」。「環on」とは、「人と人とがつながり、環をなし、新しい活動が生まれることを期待して」命名された。奥まったところにある隠れ家的なところという認識で運営されていることもあり、部屋に入るとそれほど広いところではない。間接照明が主に使われている (参考:2011年夏にLED照明に取り替えが行われた) ため一般の図書館の施設より、落ち着いた雰囲気がある。

エリアは、大きく次の 4 つのスペースに分れており全室無線 LAN 完備である。(1)多目的スペース(2)カウンター席(3)くつろぎスペース(4)グループ学習室。ここは、オープンスペースの小型版といったと

ころである。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース

ノート PC の貸し出しをしている。90 分単位で 5 台分用意している。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

オフィス・アシスタントの大学院生が 9 時から 17 時まで必ず 1 人常駐している。（午前 1 人、午後 1 人）。PC や機器の使用法などを聞くことが可能である。

(2)レファレンスデスク

なし。

(3)貸出、返却デスク

なし。ここは図書館の分室だが、本は置いていない。

(4)オンラインサポート

なし。

(5)ライティングデスク

オフィス・アシスタントの大学院生から簡単なライティングの指導もしてもらえる。

(6)教員支援デスク

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

「グループ学習室」は、可動式の椅子、机、ホワイトボード等が準備してあり、ここでインタビューを行った。基本的にガラス張りだが、ドアがあるので音声は漏れにくい。利用できるのは、人間・環境学研究科と総合人間学部の所属者のみとなっている。利用時間は、9 時から 17 時。17 時から 20 時の特別利用は本館で予約する必要がある。

(2)オープンディスカッションスペース

「多目的スペース」は、10 席。楕円形のテーブルとカウンターがある。ここでは、PC を持ち込んでの作業や共同の作業もできる。無線 LAN 可能。オープンスペースで話ができるということなので、街のカフェで見かけるような外国人との会話の練習や読書会など多岐に渡った利用がなされている。個人、グループ、学生、教職員を問わずに利用がある。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。

(2) 教員支援デスク

なし。

(3) ライティングセンター

なし。

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

なし。

(2) ホール

なし。

(3) 視聴、編集スペース

なし。

(4) プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

なし。

(2) 飲食スペース

なし。

(3) ラウンジ

「くつろぎスペース」は、座りごこちの良い椅子があり、リラックスするにはぴったりの場所である。

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーションスペース

なし。

(2) ギャラリー

なし。

(3) ラウンジ

なし。

この施設の実現までには、図書館員の方がワーキンググループを作り本館でできてないことを実現しようという努力をされたようだ。つまりは、学習形態の変化に伴う利用者ニーズにこたえるために「環 on」が作られたとのことである。

LC の新設や図書館内での改築が難しい場合でも、隣接するエリアに LC の要素を取り込んでいくことも代替案の一つである。

5. 東京大学 駒場アクティブラーニングスタジオ KALS (2009 年 9 月訪問)

大学概要:東京都目黒区駒場にある東京大学のキャンパスの一つ。教養学部、理学部などがあり、学生数は約 8,000 人。

LC 概要:名称は駒場アクティブラーニングスタジオ KALS。2 人の常駐教員が運用を支援する体制が整備されている。また、10 人のスタッフにより組織される KALS 運営委員会により運営されている。

設備とサービスの説明

建設が予定されている「理想の教育棟」のプロジェクトのモデル施設として建設された電子教室である。2007 年に完成。定員 40 人 (5 人×8 グループを想定) の教室である。メインフロアとなる Studio、待機フロアの Waiting Room、そして Staff Room、Storage Room、MeetingRoom から構成される。スタジオの広さはおよそ 144 m²。この設備自体は LC では無いが、3. 教育支援の 3-4. 電子教室のモデルとなる施設である。主として以下のような設備で構成されている。LC 内での設置の場合には、規模は調整する必要があるが、フレキシブルな教室には需要があると考えられる。

- ①**テーブル:** 移動可能なまがだま型テーブルが設置されている。組み合わせによって 2 人~6 人までのグループワークが可能である。
- ②**タブレット PC:** 45 台が設置され無線 LAN でインターネットに接続されている。
- ③**4 面スクリーン:** スタジオの各壁にスクリーン、ワイヤレスプロジェクタが設置されている。スタジオ各所からの可読性を高めるとともに、全てに違う画像を投影することも可能である。また、スクリーンは 4 分割しての表示が可能であり、最大 16 台のタブレット PC の画像を表示可能である。
- ④**電子黒板:** ガラスボードで出来ており、教員の PC を投影することが出来る。投影された PC は指示棒を利用して直接操作することが可能。
- ⑤**クリッカー:** 各種質問に対する学生からの回答を集計するための装置。0~9 までの数字がついており、学生が押した番号が教員用の PC に送信され、グラフ形式で表示することが可能である。
- ⑥**瞬間調光ガラス:** スタジオとウェイトングルームの間は透明度を変更できるガラスになっている。外から見学する際には透明にし、集中して講義を行いたい場合には不透明に切り替えることが可能である。
- ⑦**ホワイトボード:** グループ学習用に A1 サイズ程度の小型のホワイトボードを用意している。持ち運びが容易で、少人数での利用に適している。テーブルの上で利用、壁に掛けて利用することも可能である。

V 導入事例(中規模図書館) 学生数 2,001~9,999 人以下

1. 神田外語大学(2010 年 1 月訪問)

大学概要:1987 年創立の千葉市の美浜区にある私立の単科大学(外国語学部)である。学生数は、学部 3,582 人、大学院 14 人(2010 年度)。キャンパスは、比較的ゆったりしており、大学の周りは、これから開発がすすんでいくと思われる。

LC 概要:名称は、SACLA (Self-Access, Communication, Learner Autonomy)。図書館外にある独立した施設である。LC の設置は 2003 年ということなので、日本の中では設立がかなり早い。他のラーニング・commons 導入校でも開設の際に参考になっているようだ。1 階がメディアセンター (IT センター)、2 階が ELI&SALC (語学センター) となっている自律学習ができる複合施設である。サービス面では、1 階にサポートカウンター、2 階の SALC では、ラーニングアドバイザースタッフ、ELI 講師によるサポートも行われる。施設紹介の DVD での説明の言葉を借りれば自律学習のための「フィットネスクラブ」という言葉がぴったりである。施設も充実しているが、人的な学習サポートが素晴らしい。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

1 階の大部分を占めるメディアプラザには、PC が 118 台設置。特質すべきは、その内容である。通常このような施設の PC は、管理、コストの都合から単一の OS やアプリケーションがインストールされていることが多い。しかし、ここでは、用途に応じて違った種類のアプリケーションがインストールされている。例えば、プレゼンテーション作業用、画像処理用、ビデオ編集用といった具合である。また衛星放送が映る PC もある。(ノート PC48 台、AV PC 10 台、DV PC 10 台、デスクトップ PC 30 台、大型ディスプレイ PC20 台、計 118 台) さらに、2 階の SALC にもグループアクセスエリアという米国仕様の PC が準備されているエリアがある。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

PC(=Windows)や Mac の操作等についての質問は、1 階のサポートカウンターで受けてくれる。

(2)レファレンスデスク

図書館ではないので、これに該当するデスクではないが、受付カウンターのほかに Learning Help Desk と呼ばれるコーナーが 2 階に置かれている。Learning Help Desk には、ラーニングアドバイザーが利用者の学習目標を達成するためのアドバイスを行う。予約不要。ラーニングアドバイザーは、9 人おり、全員 TESOL (教育学英語教授法) 修士号取得者である。また、ボードに担当者の写真と名前が張っており、親しみ深くなるような配慮があった。その他のサービスとしてラーニングアドバイザーと学生をつなぐメールボックスがあり、質問などをいわゆる学習ポートフォリオと共に入れておくと添削して返却してくれる。

(3)貸出、返却デスク

1 階と 2 階に施設の予約や備品の貸し出しが行なえる受付カウンターがある。

(4)オンラインサポート

オンラインによるライティングサポートも行っている。

(5)ライティングデスク

上記オンラインで行うものと **Drop-in** で行うものがある。

その他 **ELI** 講師に直接申し込んで、ライティングはもちろん、会話、文法を指導してもらうこともできる。学生のアウトプットへのサポートに一番の重点を置いている。(SALC の **Learning Help Desk** ではライティングのサポートは行っていないので、前述のオンラインと **ELI** のみとなる)

(6) 教員支援デスク

なし。

c. 共同作業スペース

(1) グループ学習室

1 階にマルチパーパスルームといわれるグループ学習室が 7 室ある。iMac, ホワイトボード、ビデオカメラ、衛星放送チューナー、モニター、DVD、VHS、miniDV、Sound Capture Box が設置され何とも贅沢な設備である。訪問当日は、後期試験中だったが議論している学生がかなりいたことからみると良く利用されているようだ。

(2) オープンディスカッションスペース

メディアプラザ自体が全て会話自由となっている。特に丸テーブルのコーナーはディスカッションで利用しやすい。また、2 階のグループアクセスエリアでもミーティングしながら PC を利用して課題に取り組める。

d. 教育支援

(1) 電子教室

1 階プロダクションルームには、iMac25 台が設置され、スタジオで撮影したビデオの編集や Web サイトの作成、グラフィックの作成などが行われている。主にマルチメディア系の授業で使用されるが、その他の時間には自由に使用できる。アプリは、Photoshop, Illustrator, Dreamweaver, Premiere などがインストールされている。また、2 階のブレンディッドラーニングスペースでもプロジェクター、スクリーン、映像・サラウンド音響設備を備えた教室で授業が行える。

(2) 教員支援センター

なし。

(3) ライティングセンター

隣の附属図書館に日本語ライティングセンターがあり、小論文、レポートなどについての個別相談、個別指導を受けることができる。1 回 30 分で要予約。その他として日本語文章講座 90 分×3 回又は 4 回のコースが開設されている。どちらも複数の専門講師が対応する。

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

1 階のスタジオでは、ビデオでプレゼンテーション用の映像を撮影し、編集できる。

(2) ホール

施設外。隣接の図書館の 2 階に設置されている。クリスタルホールという名称で 120 人収容。

(3) 視聴、編集スペース

1階と2階に設置。1階では、DVD視聴、画像編集、衛星放送受信。2階では、語学用のDVD、MD、CDの視聴が行えるテレビ・DVDエリア、スピーキングブース、リスニングステーションがある。最新のAV機器、サラウンド音響設備を備えているマルチパーパスルーム（教室であるd.(1)のブレンデッドラーニングスペースとは異なる）は、個人または複数で利用できる。

(4)プレゼンテーションスペース

区切られたスペースとしてプレゼンテーションルーム（g.(1)参照）または、グループ学習室（c.(1)参照）を使用する。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

「KUIS カフェ」が隣の附属図書館の上部に設置されている。キャンパスを一望でき、とても眺めが良い。

(2)飲食スペース

メディアプラザの奥に設置してある「カフェ」。ここは壁がなく、シームレスになっているので、コーヒーを飲みながら外のイングリッシュガーデンを見ながら一息つけるし、友人との会話もできる。座席数40席、自販機3台。

(3)ラウンジ

2階の奥にELIラウンジ(英語のみ)があり、ネイティブの講師や留学生との会話することが出来る。また、同じく2階のリーディングエリアは音楽や読書にもってこいのリフレッシュエリアである。

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース

1階入ったすぐのところに「プレゼンテーションルーム」がある。ここは、グループ学習室を大きくしたガラス張りの部屋で、ホワイトボードと可動式の机と椅子、プロジェクターが完備してある。ガラス張りは、この施設の特徴であり全ての部屋が外から見える。

(2)ギャラリー

エントランスのロビースペースの壁を利用している。明るい雰囲気であり、訪問時は写真のコンテストが行われていた。入口が暗い感じだとそれ以上前に進む気がしなくなるが、ここは逆に入りやすいように工夫してある。なお、ここから階段で2階へもすぐに上がれるようになっている。

(3)ラウンジ

1階入口のロビースペースには簡易の椅子が置いてある。満席のときは、ここでコーヒーを飲みながら待つことも出来る。

h. その他

館内サインや教材の作成のためにプロダクションデザイナーが2人おり、統一感のある空間がこの施設の質を高めている。また、図書館2階にMULC（多言語コミュニケーションセンター）が設置され、世界の街並みを模したユニークなスペースがある。

結論として、SACLAは、通常の図書館とは違う、語学とITに特化した施設ではあるが、非常にレベルの高い学習支援施設だといえる。また、ハードもソフトも北米の先進的なLCと比較してもそんな色な

いレベルである。利用者は、自主的に自分のスキルをチェックしながらトレーニングでスキルアップを図れる。このように、SACLA は、利用者にとって学習を持続するために必要不可欠の要素を備えているといえる。

2. お茶の水女子大学(2008 年 12 月訪問)

大学概要:東京都文京区にある国立の女子大学。学生数は、学部 2,166 人、大学院 818 人 (2009 年度)。1875 年日本初の女性のための高等教育機関である東京女子師範学校として開設。創立以来一貫して女性の自立と社会的活躍に寄与している。なお、現在地には、1932 年に移転している。教育面では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視している。

LC 概要:名称は、「ラーニング・コモンズ」。LC の日本の草分け的存在。2007 年 4 月に設置。図書館 1 階の南側約 150 平米を改装している。運営は附属図書館。システム管理は、情報基盤センター。70 台の iMac と PC は、シンクライアントの端末で、認証ネットワークにログインすることにより、MS Office をはじめとする主要なアプリケーションを利用できる。無線 LAN も導入されている。サービス対象は学生 3,000 人と教職員 300 人。また、情報基盤センターが派遣する大学院生がラーニングアドバイザーとして常駐している。入口付近に設置されたキャリアカフェは、利用者増にも貢献している。また、LiSA(Library Student Assistant)プログラムという図書館員と学生との協働による図書館活性化のための活動が 2007 年 11 月から行われている。主に学部生が担当しており、2011 年度の前期は 10 人が登録している。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

図書館の南側なので、明るく窓から外の景色が見える。反対に外からも中の様子がうかがえるようにするためこの場所に配置したそう。装備の内容は、iMac と PC が 70 台で、シンクライアント方式である。シンクライアント方式とは、簡単に言えばサーバ上に OS やアプリケーション、ディスクスペースがあり、それらを各端末から呼び出すというものである。セキュリティ面に優れており、管理効率が高まるという利点がある。なお、端末の管理は、情報基盤センターである。エリアの中央には、机を 4 分割してパーティションで区切り、ノート PC をおいて作業できるようにしてあるコーナーもある。また、無線 LAN が整備されているので図書館内ほぼどこでもネットを利用できる。なお、この大学は、新入生全員にパソコンを貸出して、情報リテラシー教育を行うという教育方針である (注 2)。

(2)キオスク端末

LC 内の柱まわりのデッドスペースに iMac がおいてある。ここは椅子がない。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

通常 9 時から 21 時まで大学院生がラーニングアドバイザーとして常駐している。パソコンの操作や

トラブルについてのサポートを行っている。

(2)レファレンスデスク

2階のカウンターで受付を行う。

(3)貸出、返却デスク

2階のカウンターで受付を行う。

(4)オンラインサポート

なし。

(5)ライティングデスク

大学院生がラーニングアドバイザーとして常駐しているので多少のアドバイスは行える。

(6)教員支援デスク

なし。

(7)電子教室

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

なし。

(2)オープンディスカッションスペース

LCや隣接するキャリアカフェで行える。可動式の机と椅子があるので自由にレイアウトして、ノートPCを利用することも可能である。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。

(2)教員支援デスク

なし。

(3)ライティングセンター

なし。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

なし。

(2)飲食スペース

自販機が入り口にあり、ラウンジやキャリアカフェで飲むことは可能。このコーナーには、入館ゲートはないのですぐに入ってくることができる。学生の評判はよく、年間で12,000杯のコーヒーが売れるそうだ。

(3)ラウンジ

入り口の南側にソファや新聞等がある。また、机や椅子もおいてあるので学習も可能。

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース

LCの一部は、セミナー等に使用できるPC配置になっている。現代GP(注1)との協働で運営されているキャリアカフェは、大学院生の発表会、講演会等、学生主体の各種イベントに活用することができ、実践を通して、学生のコミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を図る場となっている。なお、プレゼンテーションとは関係がないが、キャリアアドバイザーが週1日在席しており、主に1、2年生に対する就職相談も行っている。また、左側の壁には、就職関係の書籍があり、フリーで貸し出し可能である。

(2)ギャラリー

図書館入口に省スペースのギャラリーがある。訪問時には卒業生の著書が展示してあった。ここは、誰でも入れるようになっている。

(3)ラウンジ

キャリアカフェに隣接するラウンジは主にくつろぐためのスペースで、ソファが設置されている。

結論として、この施設は、主に北米で行われているLCの考えをできる限り取り入れてできたものである。設備的にはそれほど大掛かりなものではないが、日本の大学図書館に与えた影響は計り知れないと思われる。

(注1) : http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/cagp/topics/topics_index.html 平成21年度で終了

(注2) : http://www.lib.ocha.ac.jp/topics/2010/notePC_100423.html

なお、2011年度から図書館2階のクワイエット・スタディスペースに、ノートPC40台の自動貸出ロッカーを設置してある。

3. 東京女子大学(2008年12月4日訪問)

大学概要:1918年創立のキリスト教主義を掲げたりベラル・アーツ教育の私立女子大。2010年度の学生数は、4,336人(学部4,237人、大学院99人)となっている。また、東京都杉並区のキャンパスは、本館を含む7棟の建築物が有形文化財に指定されている。

LC概要:LCは、図書館内に設置されており2008年4月から開始。特徴として、学生支援GPに採択

された「マイライフ・マイライブラリー」を軸としているため、ハード面での滞在型の図書館とソフト面の学生協働サポート体制という体制が確立している。

この図書館は、1996年に建設された比較的新しい建物である。そのため、改修することに対する学内のコンセンサスを得るまで大変だったようだ。意外なことであるが、2008年改修が終わるまで、ここにはOPAC端末、情報検索端末以外のPC環境のスペースがなかった。現在のような施設ができたきっかけは、学生からの「図書館の端末でWordが使いたい」に代表させる図書館にPCを設置してほしいとの声、アルバイト学生からの要望、人事異動で他の部署から来た職員が、利用者の目線で提案したことも大きな要因となっている。その後、他の図書館の見学や文献による調査をしてから、できる範囲の改修を行うという提案となった。コンセプトは滞在型の学習を保証するということ。

さて、施設の特徴は、ほとんどがガラスのパーティションで区切られており、見通しがよいということがあげられる。これは、防犯上ということもあるが、主に利用者からみると区切りがあるほうが利用しやすい（施設の趣旨が分かりやすい）からだと推測される。北米のLCでは、オープンスペースというところも多いが、どのように使えば良いか分からないという利用者もいるので、このように区別するのも一つの方法である。なおこれらの施設は、1階のみで、地階、2階、3階は従来通りとなっている。運営は附属図書館。「マイライフ・マイライブラリー」として図書館内に学生アシスタント（ボランティア・スタッフ、サポーター、システム・サポーター、学習コンシェルジュ）を置き、図書館の利用案内、端末操作のサポート、学習全般から専門分野に関する質問へ対応している。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース

メディアスペースには、48台のPCが設置されており、主に検索やレポートの作成が行える。カウンターでは9時から18時までの間（2011年度から8時45分から19時に変更）ノートPCを22台貸し出ししている。改修後の新スペースのどこでも利用可能。全てのPCが貸し出されることも多いということである。ここのPCは、お茶の水女子大学同様、全てシンクライアントとなっており、サーバにMS Officeがインストールされている。ただし、ノートPCも移動が楽で場所をとらないために人気がある。訪問当日もかなりの学生が利用していた。

(2)キオスク端末

特に指定していない。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

1階のアシスタントアイランドにデスクがある学生アシスタントのシステム・サポーターがPCの操作やトラブルへの対応や定期的なメディアスペースの巡回も行っている。メーリングリストを作成しているため、利用者に対する細かな対応がタイムリーにできる。学生アシスタント募集の際は、Word、Excel等の操作、情報処理関係科目の履修についてのスキルチェックシートの提出が求められており、情報処理教育の教員の協力により選考している。

(2)レファレンスデスク

カウンターで図書館員が行う。専門のサーチャーも控えている。

(3)貸出、返却デスク

通常のカウンターで行う。

(4)オンラインサポート

本来のオンラインサポートというより、学生アシスタントと図書館側とのメーリングリストの活用がうまくいっているので、問題の解決がスムーズであるようだ。

(5)ライティングデスク

学習コンシェルジュ（大学院学生）が、一般的なレポートの書き方や資料の探し方の対応を行う。これらの効果として、利用者が同じ学生なので気軽に質問ができるということがあげられる。

(6)教員支援デスク

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

「グループ閲覧室」は、独立した部屋で遮音性が高い。もちろん PC 利用可。

(2)オープンディスカッションスペース

「コミュニケーション・オープンスペース」では、会話が自由なので PC を使いながらの討議もできる。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。図書館での講座は、プレゼンテーションルームで行う。

(2)教員支援デスク

なし。

(3)ライティングセンター

ライティングの指導については、授業担当教員からの要望に応える形で、学習コンシェルジュや図書館員による「基本的なレポートの書き方」ガイダンスを開催。また、外部講師による「基礎的日本語能力養成講習」も実施している。いずれも主にプレゼンテーションルームでおこなっている。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

メディアスペースの一角に AV コーナーがある。

(4)プレゼンテーションスペース

プレゼンテーションルームは、図書館のオリエンテーションや授業、その他の発表で利用する。外から見えるので発表も刺激になるようだ。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

なし。

(2) 飲食スペース

リフレッシュルームが一番奥にあり、飲食可能である。自販機なし。ここも PC 利用可。

(3) ラウンジ

リフレッシュルームで代用。

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーションスペース

e. 視聴覚スペース (4) プレゼンテーションスペース 参照

(2) ギャラリー

なし。

(3) ラウンジ

なし。

最後にサービスの目玉となっている学生協働サポート体制についてだが、今まで様々な文献で取り上げられているのでここでは概略だけ紹介する。通常、チューター制度や学生アルバイトを雇用して図書館での補助業務にあたらせているケースはある。しかし、ここまで組織的にしかも学生を単なる労働の補助という位置づけではなく、仕事を通しての成長を図るというコンセプトで運営が行われているというケースはあまりない。人員確保という面からも、おおいに参考になる事例と言って良いだろう。

学生アシスタントは、初回の活動時に簡単な研修を受けてからスタート。徐々に他の学生アシスタントにステップアップしていく例も見られる。募集は、ホームページと館内の掲示で公開。前期と後期で2回行っている。

- ① ボランティア・スタッフ／利用者として図書館を利用しながら利用案内や簡単な業務を行う。無給。
- ② サポーター／配架等の作業の合間に学生からの質問に対応する。
- ③ システム・サポーター／PC の操作やトラブルへの対応。
- ④ 学習コンシェルジュ／情報検索、基本的なレポートの書き方、学習の進め方などを助言。

最初に利用ガイダンスを行い、これまでの Q&A などの資料を渡している。図書館側の意向を学生アシスタントとのミーティングで伝えて図書館に対する理解を深めると共に目的を共有する。アシスタント間では、図書館の利用者をどうしたら増やせるかなどを話し合っている。効果として、利用者が同じ学生なので気軽に質問ができるということがあげられる。また、学生アシスタントからの図書館に対する要望も聞くことができる。このように学生の自主性を重んじた運営が、学生の成長に役立っているようだ。

結論だが、伝統的な図書館を利用者に沿ったようにうまく改装することで、LC として機能している。また、学生の教育と成長をこのような形で実現しているということはすばらしいことである。

4. 大手前大学(2009年11月訪問)

大学概要:1966年創立。リベラルアーツ系の私立大学。キャンパスは2つ。1年生全員が「いたみ稲野キャンパス」(兵庫県伊丹市)で、2年生以降は「さくら夙川キャンパス」(兵庫県西宮市)で授業を受ける。学生数3,367人(学部生3,352人[内166人は通信教育部生]、大学院生15人)。構成は1研究科(比較文化研究科)、3学部(総合文化学部、メディア・芸術学部、現代社会学部)

LC概要:通称「メディアライブラリー CELL」。2007年9月にさくら夙川キャンパスに建てられた(大手前学園創立60周年事業の一環)。LCのあるさくら夙川キャンパスは神戸(三宮)から10分、大阪(梅田)から15分、駅からも徒歩7分とアクセスが便利なところにある。LCの建物は地上2階、地下1階建て。キャンパスの中央に位置している。図書館とホール、eラーニング用のスタジオとコンテンツセンター、そして16の小教室(cells)が配置されている。図書館は専任職員4人とアルバイト1人、カウンター業務は業者に委託している。建物内の施設(ホール、スタジオ、コンテンツセンター等)は他部署の管轄のものあり。

施設とサービスの概要:

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース

PCが利用できる場所は大きく次の2箇所に分かれている。

a)図書館内PC 11台(情報検索コーナー)、ノートPC 15台(固定)

b)マルチメディア制作教室(特にメディア関連の授業に特化):PC室(40席)、制作室1・2(各30席)。館内のPCは全て情報基盤センターの管轄。館内は無線LANの利用が可能。館内でのPC貸出を準備中。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

なし。図書館カウンターで相談を行っている。

(2)レファレンスデスク

図書館カウンターで調査相談を行っている。

(3)貸出、返却デスク

同じく図書館カウンターで行っている。

(4)オンラインサポート

不明である。

(5)ライティングデスク

学習支援センターで行っている。ここは、学生課の管轄で図書館内のCELLの一室を使用している。

(6)教員支援デスク

CELL 教育研究所（教育研究活動に関する研究開発と実践）が設置されている。

c. 共同作業環境

(1) グループ学習室

グループ学習室用として「CELL」という名称の小部屋（10～15 人収容）が 16 室あり、そのうち 12 室がグループで利用可能。

(2) オープンディスカッションルーム

オープンスペースとしての共同作業環境は特に設けていない。

d. 教育支援

(1) 電子教室

地階 1 階のマルチメディア制作教室（特にメディア関連の授業に特化）という教室がある。PC 室（40 席）、制作室 1・2（各 30 席）には、Mac、PC 及びペンタブレットやスキャンシステムが配置されている。

(2) 教員支援センター

CELL 教育研究所で対応。ここは、教育研究活動に関する研究開発と実践が行われている。（教務が管轄）

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

e ラーニングに力をいれており、e ラーニングのためのデジタルコンテンツの収録、編集スペースとして「コンテンツセンター」を設けている。内容は次のとおりである。なお、ここは e ラーニング推進センターの管轄である。

- ① 録音室 1：教材作成用録音録画及び配信装置
- ② 録音室 2：教材作成用録音録画及び配信装置
- ③ 撮影スタジオ：教材作成用テレビスタジオ・編集装置
- ④ 調整室

(2) ホール

ホール：多目的ホール「フォーラム」（200 人収容）。275 インチ(16:9)のスクリーンを設け、講義、講演会、映写会、コンサートなど、多目的に対応。フォーラムからの中継や配信も可能。ここは、総務課の管轄である。

(3) 視聴、編集スペース

図書館部分に AV スペースあり。

(4) プレゼンテーションスペース

カンファレンスルームがある。会議室だがプレゼンスペースとしても使える。

40 席、AV システム、ビデオプロジェクターを備えている。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

「フォリア」というカフェがあり、軽食や飲み物を提供している。学食と同じ業者である。80席。

(2)飲食スペース

カフェで代替。ちなみに館内の飲食はカフェ以外不可。

g. 展示・イベント

(1)プレゼンテーションスペース

カンファレンスルームを使用5。(4)参照

(2)ギャラリー

なし。

(3)ラウンジ

緑が映えるルーフガーデンがある。

5. California State University San Marcos(2009年9月訪問)

大学概要: California State University 学校群のひとつとして 1989年に設立。米国のカリフォルニア州サンディエゴの北約 50 キロ（車で 1 時間程度）の街、San Marcos に位置する。学生数は約 9,000 人（学部生 8,100 人、大学院生 900 人）。

LC 概要: 図書館はキャンパスの入口近くにあり、5 階建ての建物。キャンパスが小高い丘に位置しているため、丘の下と上の 1 階と 3 階に入口がある（3 階が正面玄関になっている）。現在の図書館は 2004 年に完成した。建物内に、情報技術、学習支援、授業支援の専門の部門のオフィスまた出張所がある。

ひとつの建物で学生も教員もワンストップサービスが利用できる。図書館が運営している LC 部分は学生スタッフ（Student Information Assistant）と学生スタッフを統括する専門職員、レファレンスおよびシステム担当の専門職員で共同して運用している。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

3 階の正面入口を右側に「Research Computers」のスペースがある。資料がおけるスペースはあるが、それほど広くないため 2~3 人での使用はむずかしい。その他、1 階入口から入ったところに情報支援部門の設置している PC スペースがある。そこでは、ノート PC の貸出（1 回 3 時間まで）も行っている。

(2)キオスク端末

3 階の正面入口近くに 12 台設置されていた。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

調査支援も兼ねたデスク（Research Help Desk）が Research Computers コーナー内に設置されていた。そこでは、学生スタッフ（Student Information Assistant）が交代で勤務して質問に対応していた。学生スタッフで対応できない質問は、専門のライブラリアンや情報技術専門のスタッフに取り次ぐシステムができています。また、質問対応の記録はオンラインソフト上で共有されており、情報共有と統計を可能としている。学生スタッフの教育と取りまとめには担当のライブラリアンが1人いる。

(2)レファレンスデスク

テクノロジーデスクと一本化されている。前述の「2（1）テクノロジーデスク」のとおり。

(3)貸出・返却デスク

3階の入口左側に1箇所設置されていた。

(4)オンラインサポート

チャットシステム、電子メールでの問い合わせが可能。図書館のホームページからアクセスできるようになっている。

(5)ライティングデスク

d. 教育支援（3）ライティングセンター 参照

(6)教育支援デスク

d. 教育支援（2）教育支援センター 参照

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

4、5階にあり。

(2)オープンディスカッションスペース

特に区切られたスペースはなし。

d. 教育支援

(1)電子教室

Instruction Labs として2部屋（45人用、28人用）が用意されている。

(2)教育支援デスク

Faculty Center TRC が同じ館内にオフィスを設けている。

(3)ライティングセンター

あり。運営は、図書館とは別部門が担当。それ以外にも関連のサービスとして数学に特化したチューターサービスの「Math Lab」も同じフロアにあった。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3) 視聴、編集スペース

「Multimedia Library」として1階にあり。そこに、視聴・編集スペースがまとめて提供されている。個人用のPCとグループ編集用の部屋が2部屋ある。

(4) プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

同じ建物の3階にスターバックスあり。ただし、入口が別のため図書館からは入ることができない。いったん図書館から出なければいけない。

(2) 飲食スペース

館内では飲み物はフタがしまるものだけが許可されている。食べることは禁止されている。

(3) ラウンジ

「Reading Room」(5階)がある。読書のみ集中するスペースとなっており、部屋全体の内装や照明は落ち着いた色でまとめられている。くつろげるソファやテーブル、椅子が置かれている。娯楽関係のものは置かれていない。

それ以外に、5階の階段を上がった横の空間に高台から下の景色が見下ろしながらくつろげるようにソファが数点置かれている。

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーション・スペース

なし。

(2) ギャラリー

3階の階段前のロビーが展示スペースになっている。

(3) ラウンジ

展示用のラウンジはないが、イベントにバルコニー (Roof Patio) や、読書室 (Reading Room) を利用できる。

6. Elon University (2009年9月訪問)

大学概要: 1889年創立。米国ノースカロライナ州のElonという街に位置する私立大学(ミッション系)。

ノースカロライナ州の最大都市シャーロットから車で約2時間かかる。学生数は約5,600人(学部生5,000人、大学院生600人)。

LC概要: 図書館は地上3階建ての建物。主に1階部分がLCとして利用されている。中央に専用のカウンターがあり調査支援の専門職員と、IT支援の学生スタッフが常駐している。LCの運営は図書館全体で行っている。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

館内（主に 1 階部分）に 124 台が用意されている。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

レファレンスデスクも兼ねた Information desk とマルチメディア関係のデスクとして Media services desk が用意されている。Information desk では『Elite プログラム (Emergin Leaders in Technology)』という制度で学生スタッフがキャリア支援（就業体験が勤務学生のキャリアアップになる）の一環としてテクノロジー支援の仕事をしている。仕事内容は IT 機器の操作、編集ソフトウェアの操作の指導、講習会の実施など。

(2)レファレンスデスク

前述の Information desk 参照。

(3)貸出・返却デスク

あり。

(4)オンラインサポート

チャットシステム、電子メールでの問い合わせが可能。図書館のホームページからアクセスするようになっている。

(5)ライティングデスク

d. 教育支援（3）ライティングセンター 参照

(6)教育支援デスク

d. 教育支援（2）教育支援センター 参照

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

あり。21 室（大 1 室、小 20 室）。

(2)オープンスペース

1 階の PC コーナーに複数人で利用できる Group Work Station がある

d. 教育支援

(1)電子教室

Computer Lab（1 階、2 階 各 1 部屋）がある。

(2)教育支援センター

教員の授業支援のための部署「Teaching & Learning Technologies」のオフィスと会議室、作業スペースが図書館 1 階にある。

参考 : http://www.elon.edu/e-web/academics/teaching/tlt_home.shtml

(3)ライティングセンター

あり。それ以外に、Tutoring Center (数学科目) もあり。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

館内の PC スペースで可能。

(4)プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

なし。館内への飲食の持ち込みは可 (飲み物はふたがしまるもの。食べ物は個包装の小さいものに限る)。ただし、Computer のある Computer Lab や Information Commons では不可。

g. 展示・イベント

なし。

[参考]

・ Elite Program について : 次の 2 種類の仕事を行う

ー 学生向けの 1 対 1 の講習

Powerpoint を使ったプレゼンテーション作成、ウェブサイトの作成方法

スキャナーの使い方、Blackboard の使い方、表やグラフの作り方

映像作成と DVD への焼付け、写真加工 (Photoshop を使用)

ー ワークショップの開催 (ソフトウェアの活用方法)

Dearmweaver, Photoshop, Final Cut Pro, Motion, Pto Tools, DVD Studio Pro

Access, Adobe LiveCycle, Illustrator, Garageband, Flash, iMovie など

参考 : <http://faculty.rwu.edu/smcmullen/Elon.html>

http://facstaff.unca.edu/sinclair/spaceplan/elon_library.html

VI. 導入事例(大規模図書館) 学生数 10,000 人以上

1. Brooklyn College (2010 年 9 月 24 日訪問)

大学概要: ニューヨークブルックリンにある市立大学。ニューヨーク市立大学機構（略称 CUNY）の 1 つ。1930 年創立。マンハッタンから地下鉄で 40 分程度。地下鉄の駅から歩いてすぐの距離なので便利は良い。公立だがとても立派な施設で驚いた。学生数約 16,000 人（学部生 12,000 人、大学院生 4,000 人）。

LC 概要: とくに LC と呼んでいるわけではないが、施設は LC そのものであった。組織的には、大きく Information Services, Collection Department, Access Services, Distinctive Collections, Library Systems & Academic IT, Technical Services のセクションに分かれている。この中で LC に大きく関わっているのが、Library Systems & Academic IT の部門である。図書館内には、548 台の PC がある。ちなみに図書館は、座席数が 2317 席、160 万冊の蔵書。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1) PC スペース

NewMedia Center の Computing Area を中心として実にワイドに展開されている。①Lower Level に、111 台の PC、スキャナー 1 台とデザインされた集中して学習できる個人ブースを中心としたエリア②1st Floor には、63 台の PC と 12 台の Mac が準備してある。③2nd Floor には、105 台の PC、12 台の Mac, Library Café には、105 台の PC と 12 台の Mac が準備されている。これらのパソコンは、使用できるかどうかサイトで分かるようになっている。なお、学部生は Semester ごとにプリント 300 枚フリー、大学院生 600 枚フリーである。この大学では、授業でも図書館でも Blackboard という LMS(Learning Management System)を利用している。そのため学生は常にサイトに接続する必要がある。授業では、e ラーニングのみで受講できる場合もあるし、資料の配布を行っているだけのいわゆるブレンディッドラーニングに近い場合もある。図書館でも Blackboard の利用のためのワークショップが開かれている。

これだけ PC の利用が必須になるとノート PC の需要も高まる。そのため、2009 年 1 月から学生及び教員に対しての PC 貸与（65 台）の計画がはじまった。学生に対しては、1-3 日、教員には 1 週間から 1 学期となっている。この PC は、XP+MS Office という組み合わせとなっている。学生が持っている PC は、もちろんノート型である。館内は、無線 LAN 完備なので、どの場所でもノート PC を開いている姿が印象的であった。

(2) キオスク端末

特に指定していない。これは、前述のとおりノート PC を持っている比率が高いということもあるのだろう。もちろん図書館内での検索のための端末は、各階に準備してある。

b. 利用者支援

(1) テクノロジーデスク

1 階に Information Service Desk があり、利用者からの様々な要求に応える。2 階に NewMedia Service Desk がある。また、利用者向けのワークショップが、図書館内や Library Café などで開催されている。内容はインターネット初心者からアクセス使用法や Photoshop, Illustrator の講座など多岐にわたる。

(2) レファレンスデスク

1階にインフォメーションデスクと一緒に設置している。また、Music Library Service Desk を2階に置くなど、各階にサービスデスクを置いている。

(3)貸出、返却デスク

1階メインエントランスの横に配置している。

(4)オンラインサポート

Question point というシステムがあり、週に12時間モニタリングをしているとのこと。年2,000件の質問がある。主にリサーチペーパーやPCへログインができないなどの質問が多いそうである。質問はチャットで行われており、10分後にはチャットで返事する。

(5)ライティングデスク

なし。図書館外にライティングセンターがある。

(6)教員支援デスク

d. 教育支援(2) 教員支援センター 参照

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

Group Study Room が13室ある。予約は貸出・返却デスクで行う。利用は1回に2時間が限度で、机と椅子以外にホワイトボードが備え付けられている。

(2) オープンディスカッションスペース

ほとんど全てのフロアで会話が可能である。

d. 教育支援

(1)電子教室

Multimedia Classroom としてPC室(36台)とMac室(27台)がある。どちらにもPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションもかなりの数インストールしてある。各部屋にプロジェクター1台、教員用ワークステーション1台、ホワイトボード1台が装備されており、図書館のワークショップや授業で使用している。また、これより小さな部屋が1室ある。

(2)教員支援センター

Faculty Development Lab が3階に設置されている。授業に必要な教材の作成等のサポートや作成のためのスキルアップの援助を行う。米国の大学では、いわゆるFD支援の組織が図書館内にある場合が多い。PC9台、Mac13台、プロジェクター、スキャナーなどを設置している。必要に応じて個別トレーニング受けることが出来る。また、ポスターの出力も可能である。

(3)ライティングセンター

なし。図書館外に設置してある。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

Woody Tanger Auditorium200人程度収容。講演会、音楽会、オリエンテーションなど様々な催しがある。

(3) 視聴、編集スペース

2階に Group Viewing Rooms が5室あり、ホワイトボード、DVD、デジタルテレビ、PC、が設置してある。パワーポイントを利用したプレゼンテーションの練習やグループ学習にも利用可能である。

(4) プレゼンテーションスペース

Workshop Center1室があり。ワークショップが行われている。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

「Library Cafe」という名前のカフェがある。1998年に設置された。2002年に改築されているPC & Macを配置。24時間オープン。学生と教職員のみ利用可。売店は、スターバックスなので飲食できるものが売っているが、機器の前では飲食は禁止である。ただし、蓋付きの飲み物可。いままで事故はほとんど起きていないようだ。また、セキュリティも警備員を配置している。ヘルプデスク、ラップトップバー、グループスタディールーム4室、コピールーム、メインエリア

(2) 飲食スペース

なし。

(3) ラウンジ

かなりのソファが各階にあった。

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーションスペース

e. 視聴覚スペース (4) プレゼンテーションルーム 参照

(2) ギャラリー

なし。

(3) ラウンジ

かなりのソファが各階にあった。

2. New York University(2010年9月24日訪問)

大学概要: ニューヨークマンハッタンにある、1831年創設の総合私立大学である。50,000人近い学生を擁しており、多くの市民で賑わうワシントン・スクエア周辺に位置している。周辺は、ニューヨークでも文化的なエリアで、深夜まで多くのレストランやカフェが営業している。

LC 概要: 中央図書館としての機能を持つ Bobst Library 内に設置されている。図書館は、12のフロアで構成されており、約400万冊の蔵書規模を誇っている。学内者は24時間の利用が可能である。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

学生は、基本的にはノート PC の所有を義務付けられており、図書館内でも自由に無線 LAN 接続による利用が可能である。訪問直後の 2010 年秋に図書館内の改修が実施されており、PC 等が増設されている。

(2)キオスク端末

館内各所に 5 分以内の利用を想定したキオスク端末が設置されている。立ったまま利用し、ログインは不要である。

b. 利用者支援

(1)テクノロジー支援および(2)レファレンスデスク

1 階に設置され総合カウンターの役割を担っている。学生スタッフが一時対応を行っており、難しい場合には専門のスタッフへ引き継ぐ。学習、研究サポートのために数多くのサブジェクトライブラリアンが雇用されている。化学、数学、歴史といった約 70 の専門分野に分かれ、高度なレファレンスを提供している。この時の訪問の際は、東アジアコレクション担当のライブラリアンが対応してくれた。

(3)貸出、返却デスク

レファレンスデスクとは別に貸出、返却専用のカウンターも設置されており、基本的に学生スタッフのみで運営されている。

(4)オンラインサポート

サブジェクトライブラリアン、学生スタッフが対応するチャットシステムが整備されている。レファレンスカウンターで回答が困難な場合や LC 外部からの問い合わせに対応している。

(5)ライティングデスク

LC 外部に設置されている。

(6)教員支援デスク

d. 教育支援 (2) 教員支援デスク 参照

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

2 名用、4~6 名用、10~12 名用と規模別に設置されている。利用はオンラインで予約を行うことが可能である。ホワイトボード、ディスプレイ、ノート PC、プロジェクター、スクリーン等が設置されている。一部大学院生専用の学習室も設置されている。

(2)オープンディスカッションスペース

ほとんど全てのスペースで会話が可能。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。

(2) 教員支援センター

3つのスタジオが整備されており、ポスタープリンター、ドラムスキャナーといった機器の利用、資料のスキャンやプレゼン資料作成のサポート、統計ソフトなどの利用サポートが提供されている。学生はもちろん、教員が講義で利用する映像資料、音声資料などを作成、編集する際にも利用されている。これからの学習には、映像・音声資料の利用は欠かせないので利用も増加している。

(3) ライティングセンター

なし。LC 外部にあり。

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

b. 利用者支援 (6) 教員支援デスク 参照。

(2) ホール

なし。

(3) 視聴、編集スペース

なし。

(4) プレゼンテーションスペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

なし。

(2) 飲食スペース

サンドイッチ、スナック、ドリンクの自動販売機が設置された飲食スペースが設定されている。無線 LAN も配備されており、おしゃべりをしながらゆったりと寛げるスペースがある。大学周辺はニューヨークでも文化的な地域で、深夜まで営業しているカフェやレストランが多数あり、きちんと食事をしたい時には外に出る学生も多い。

(3) ラウンジ

なし。

g. 展示、イベント

(1) プレゼンテーションスペース

なし。

(2) ギャラリー

中央部が吹き抜けになった回廊状の構成がされており、吹き抜けの1階部分は広いスペースが確保されている。大学出版部が出版した資料の展示等がされており、様々な目的に利用することが可能である。

(3) ラウンジ

なし。

3. University of Southern California(2009年9月訪問)

大学概要:1880年創立。米国のカリフォルニア州ロサンゼルスを中心部に位置する。西海岸地域で最も長い歴史があり、最大規模の私立総合大学。76の学士号課程、122の修士・博士号課程をもつ。学生数は約33,000人(学部生17,000人、大学院生16,000人)。

LC概要:キャンパス内には16の図書館がある。その内、LCがあるのはLeavey Library。1994年に建てられた、地下1階、地上5階建ての建物。地下1階～2階がInformation Commonsに利用されている。Lower IC(地下)は主に学部生向け、Upper IC(2階)は大学院生向けに提供されていた。IC担当の専門部門が図書館内にあり。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース

建物内のPCスペース、250台のPC(=Windows)+Mac。内訳は、Lower IC: PC88台+Mac43台、Upper IC:PC74台+Mac1台。PC用の机は特注品で、2～3人まで共同利用が可能ぐらいの広さがある。またPC Classroom: PC20台(Learning RoomA), Mac20台(Learning RoomB)があり、空き時間は自習利用ができる。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

テクノロジー支援のデスク(地下1階)、学生アルバイトがプリンタトラブルなど簡単なトラブルに対応している。

(2)レファレンスデスク

情報部門と図書館部門のスタッフが各1人、学生アルバイト(SNAs: Student navigation assistants)の2人も対応している。同時に貸出・返却と同じ階にあるマルチメディア・コモンズも対応している。

(3)貸出、返却デスク

貸出・返却デスクが1階にある。

(4)オンラインサポートデスク

「オンラインデスク」のサービスが用意されている。チャット形式で質問ができる。使用しているのはAIM, Yahoo!Messenger, MSN Messenger, Google Talk、図書館の職員が平日の午後のみ対応。休日と長期休暇中はサービス休止。

(5)ライティングデスク

「ライティング・センター」が月～水の19:00-21:00で図書館のグループ学習室の1室を使って対応している。

(6)教員支援デスク

なし。

c. 共同作業環境

(1) グループ学習室

32 部屋ある。Lower IC: 19 部屋(5~12 人)、Upper IC: 13 部屋(4 人)

(2) オープンディスカッションスペース

Lower commons(地下 1 階)の PC スペースで共同学習もできるようになっている。

d. 教育支援

(1) 電子教室

PC Classroom: PC20 台(Learning RoomA), Mac20 台(Learning RoomB) が用意されており、空き時間は自習できる。

(2) 教員支援センター

教育支援デスクはなし。

(3) ライティングセンター

ライティングセンターは別部門だが、図書館内に出張してサービスをしている。

(b. 利用者支援 (5) ライティングデスクサポート 参照)

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

なし。

(2) ホール

40 人程度を収容できるスクリーン付のホールあり。

(3) 視聴、編集スペース

マルチメディア・コモンス(1 階)があり。12 台(PC6 台+Mac6 台の映像・動画・音声編集用のソフト、大型ディスプレイ、スキャナ等を備えた環境あり。同じフロアの貸出・返却デスクで機器貸出(デジタルビデオカメラ、プロジェクター、デジタルオーディオレコーダー、ヘッドフォン)も行っている。

(4) プレゼンテーション・スペース

グループ用のプレゼンテーション練習用の部屋あり。Group Presentation Room : Multimedia Commons(スキャナー、ペンタブレット、マルチメディア・カードリーダーDVD 作成ソフト(DVD burner)、ウェブサイト作成、グラフィックデザイン、映像・画像作成ソフトを設置)。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

なし。

(2) 飲食スペース

なし。館内はフタのしまる飲み物であれば、持ち込んで飲むことが可能。また、周りを汚さない軽食(匂い等がない、こぼれない)であれば食べることも可能。

(3) ラウンジ

なし。

g. 展示・イベント施設

(1) プレゼンテーションスペース

もし、代用するならばホール。(5. 視聴覚スペース(2)ホール参照)

(2) ギャラリー

なし。

(3) ラウンジ

なし。

参考: 飲食規定 http://www.usc.edu/libraries/about/facilities_usage/food_drinks

permit eating and drinking in most spaces, though we ask library users to:

- Limit food to tidy snacks
- Bring drinks only in spill-proof containers

4. Georgia Institute of Technology (2009年9月訪問)

大学概要: 1885年創立。米国のジョージア州アトランタ市内の中心部に位置する。科学工学分野の研究と教育では全米でトップクラスの州立大学。学生数は約19,000人（学部生12,600人、大学院生6,400人）。

LC概要: 図書館の建物は東棟と西棟に分かれており、西棟は地下1階～4階のうち2階部分を Commons として使っている。東棟は地下1階～6階の建物のうち1階部分を Commons として使っている。両方の棟は渡り廊下でつながっており行き来でき、共同学習用の共同作業用の空間が先駆的である。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1) PC スペース

西棟1階（85台）、東棟1階（グループで利用可能）にある。

(2) キオスク端末

西棟1階のサービスデスク横に約10台あり。東棟1階のPCスペースにも1台あり。

b. 利用者支援

(1) テクノロジーデスク

調査支援とテクノロジー支援をあわせたサービスを Information desk（西棟1階）で行っている。それ以外にも、情報技術の専門部門が設けた OIT Technology Center（西棟地下1階）がある。

(2) レファレンスデスク

テクノロジーデスクと一本化されている。前述の「b. (1) テクノロジーデスク」のとおり。情報技術部門と図書館部門のスタッフがそれぞれ常駐している。

(3)貸出・返却デスク

東棟 1 階にあり（資料は全て東棟部分にあるため）。

(4)オンラインサポート

チャットシステム、電子メールでの問い合わせが可能。図書館のホームページからアクセスするようになっている。

(5)ライティングデスク

d. 教育支援 (3) ライティングセンター 参照

(6)教育支援デスク

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

なし。

(2)オープンディスカッションスペース

全てがオープンで様々なタイプの机や椅子、間仕切りの組み合わせで他大学に見られないような工夫をしていた。

d. 教育支援

(1)電子教室

なし。

(2)教育支援デスク

なし。

(3)ライティングセンター

ライティングセンターはないが、西棟地下で Success Program(1-To-1 Tutoring)という学生向けのチューターサービスをしており、専用のスペースがある。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

なし。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

Multimedia Studio（西棟 1 階）に 22 台の MacPro(24 インチディスプレイ) を用意したコーナーあり。ビデオ編集・加工、スキャナー、操作方法やトレーニングについては Information Service Desk で対応している。

(4)プレゼンテーションスペース

なし。

(5)その他

- ・ Rehearsal Studio（西棟 1 階）：プレゼンテーションのリハーサル用の部屋。プレゼンテーション専用の機材、ソフトが備え付けられた部屋あり。
- ・ Multipurpose Room（西棟地下 1 階）：OIT Technology Center が運営している。プレゼンテーションのリハーサルや、ビデオ会議も可能。
- ・ Poster printer：貸出・返却デスク横にポスター作成用のプリンターが用意されていた。プレゼンテーション支援の一環ともいえる。

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

東棟 1 階に「Jazzman's Café」があった。飲み物と軽食の購入可能。同じスペースに自動販売機（軽食や飲み物）もあった。

(2) 飲食スペース

なし。

(3) ラウンジ

東棟 1 階の DVD や娯楽系の小説スペースの近くに、様々な種類のソファが置かれていた。プライバシー保護用のパーティションがユニークだった。

g. 展示・イベント施設

(1) プレゼンテーションスペース

Performance Space（東側 1 階）というスペースがある。四色の蛍光灯（シーン別で色を変えられる）、ガラスの間仕切り、可動式の椅子と机が備え付けられている。イベント内容にあわせて四色の蛍光灯の色を変えたり、椅子や机を移動させることで雰囲気を変えられる。

(2) ギャラリー

前述の Performance Space がギャラリーの役割も持つ。

(3) ラウンジ

展示、イベント目的のラウンジはなし。

5. Emory University (2009 年 9 月訪問)

大学概要：1836 年創立。米国ジョージア州アトランタの郊外にある私立総合大学。メディカルスクールが有名。学生数約 13,000 人（学部生 7,000 人、大学院生 6,000 人）。

LC 概要：10階建てのタワー棟と4階建てのロビー棟が繋がった建物。Learning Commons のメインはタワー棟の1、2階部分。建物内に IT 技術を使った双方向授業の支援部門のオフィスと教室がある。図書館に LC の専門の部門はないが、レファレンスとシステム担当の専門職員と、学生スタッフで運営している。また、図書館から歩いて2〜3分のところに情報技術部門が運営している Cox Hall という実験的な IT 教育・学習用の施設がある。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

館内に PC168 台あり。ノート PC の貸出サービスもあり（1回3時間）

(2)キオスク端末

入口ゲート近くに3台あり。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

調査支援とテクノロジー支援の統合デスクが館内に2箇所（Library Service Desk [2階]、Service desk [1階]）ある。図書館員1人と学生スタッフ1人の計2人で対応していた。学生スタッフがPCやプリンタなどの簡単な対応をしている。

(2)レファレンスデスク

テクノロジーデスクと一本化されている。前述の「2（1）テクノロジーデスク」のとおり。

(3)貸出、返却デスク

Library Service Desk(2階)で貸出・返却の対応もしている。

(4)オンラインサポート

チャットシステム、電子メールでの問い合わせが可能。図書館のホームページからアクセスするようになっている。

(5)ライティングデスク

d. 教育支援（3）ライティングセンター参照

(6)教育支援デスク

なし。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

・中教室タイプ 7室あり。各教室の設備は次のとおり。

Room213 : iMac workstation (dual boot), SMART board

Room656, 664, 665 : large flat-panel plasma TV screen, iMac workstation (dual boot), ノートブックも接続可能

Room756,764m765 large flat-panel plasma TV screen, iMac workstation (dual boot), ノート PC も接続可能

・小教室タイプ 10室あり。[小：3～5人、中：3～8人、大：6人以上]

10室の内訳は1階：小2室、2階：小1室・中1室、6階：中3室、7階：中3室

参考：<http://guides.main.library.emory.edu/content.php?pid=27486&sid=199457>

(2)オープンスペース

タワー棟の1階部分に共同作業用のスペースあり。内装や家具がカラフルで雰囲気を盛り上げる効果があった。

d. 教育支援

(1) 電子教室

4 箇所あり。ECIT(Center for Interactive Teaching)部門に 1 室、3 階に 3 室 (10 人用 1 室、18 人用 2 室)

(2) 教育支援デスク

教員向けの ECIT のオフィスと電子教室があった。専用の作業スペースと専門スタッフがいて、ウェブサイトの作り方、映像、画像などのコンテンツ作成について教えてくれる。

参考：<http://cet.emory.edu/ecit/>

(3) ライティングセンター

ライティングセンターは別部門で、そのサテライト支援センター (Service Desk [1 階] の後方にあり) あり。

参考：http://guides.main.library.emory.edu/content.php?pid=199307&search_terms=presentation

e. 視聴覚スペース

(1) スタジオ

なし。

(2) ホール

なし。

(3) 視聴、編集スペース

Musig and Media Library (4 階) に視聴スペースあり。編集は Library Commons (1~2 階部分) の PC を利用。

(4) プレゼンテーションスペース

g. 展示、イベント (1) プレゼンテーションスペース 参照

f. 滞在支援施設

(1) カフェ

1 階にカフェあり。軽食、飲み物の購入が可能。広い空間とソファタイプの椅子がある。

(2) 飲食スペース

なし。

(3) ラウンジ

ロビー棟 3 階にある Matheson Reading Room では、雑誌を主においている階だが、ゆったりした椅子や机、落ち着いた内装・照明によりくつろげるような環境をつくりだしている。

g. 展示・イベント施設

(1) プレゼンテーションスペース

なし。図書館を出て徒歩 3 分ぐらいにある Cox Hall (情報技術部門が運営) がその役割をもつと思われる。補足の Cox Hall の説明を参照。

(2) ギャラリー

なし。図書館を出て徒歩3分ぐらいにある Cox Hall (情報技術部門が運営) がその役割をもつと思われる。補足の Cox Hall の説明を参照。

(3) ラウンジ

なし。

【補足】

Cox Hall (Computing Center 提供)

図書館より歩いて3分、情報技術部門の実験的施設。館内の主な施設と特徴は次のとおり。

参考：<http://cet.emory.edu/cox/index.cfm>

① テクノロジー支援

デスクトップ48台(台数の半分はMultimedia対応)、貸出用ノートPC 80台がある。Multimedia対応のMultimedia Mac Stationsは机も広く共同作業がしやすくなっている。また間仕切り等の家具もユニークで興味深い。

② 利用者支援

Service DeskがHall中央に設けられている。専門の職員と学生スタッフが常駐している。

③-1 共同作業環境

Galleryスペースに4人がけの椅子と机がいくつか置かれており、共同作業が可能。声を出して話すことができる。また、ノートPCも無線LANで接続可能。

③-2 共同作業環境(プレゼンテーション用)

3箇所のプレゼンテーション用の共同ワークスペースがある

- ・ Plasma Station (2箇所、3人まで) : SMART スクリーン (ワークステーションが組み込まれている) あり。利用目的はBlackboard (eラーニング) の利用、プレゼンテーションの練習、ビデオやDVDの視聴。
- ・ Collaboration Center (1箇所、4人まで) : SMART ディスプレイ (背面投射型 SMART 3000i DVIT) あり。利用目的はプレゼンテーションの準備。ノートPCを持ってくれば接続可能。

④ 教育支援: 電子教室

4室あり。15~18人収容が可能。移動可能な椅子と机が備え付けられている。また、そのうちの1室は3 Interactive SMART screen, もう1室には SMART Board (interactive touch screen) が設置されている。詳しい設備機器は次のとおり。

- ・ ClassroomA(18人) : 3Interactive SMART screen, International VHS/DVD player, Wolfvision Document Camera
- ・ ClassroomB(15人) : SMART Board (interactive touch screen), LTX Interactive whiteboard, VHS player, DVD player, Cable television, Document Camera
- ・ ClassroomC(15人) : プロジェクター, VHS/DVD player, Blu-Ray player, Cable television
- ・ Fishbowl (8人) : プラズマスクリーン (50インチ)、Cable television

⑤その他

Cox Hall 内の壁面は学生のアート作品の展示スペースになっていた。

6. University of North Carolina at Charlotte(2009 年 9 月訪問)

大学概要:1946 年創立。米国ノースカロライナ州シャーロットの郊外に位置する州立大学。学生数 23,000 人（学部生 19,000 人、大学院生 4,000 人）。

LC 概要:図書館は地下 1 階～地上 10 階建ての建物。そのうちの 1 階部分を Information Commons に主に使っている。同じフロアに図書館の調査支援の専門職員と情報技術部門の専門職員のカウンターが両方あり、ワンストップサービスを提供している。また、情報技術部門では学生スタッフも活用している。情報学を専攻している学生ではなく、あえてそうではない学生を雇用して教育することで、各専攻の学生のニーズがわかる IT 技術に強いスタッフを育成している。

設備とサービスの説明

a. テクノロジー支援

(1)PC スペース

290 台 (PC+Mac) の PC が用意されている。1～3 階部分の備付 PC の机は資料を広げるのに十分な広さがある。貸出用ノート PC も用意されている。

(2)キオスク端末

なし。

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク

Technology Support Desk (1 階) で対応している。情報技術の専門部門の職員の指導のもと、学生スタッフも働いている。

(2)レファレンスデスク

Research Services Desk (1 階) で対応している。専門のライブラリアンが常駐している。また、テクノロジーデスクとレファレンスデスクの間に総合窓口の役割をもつ Information Desk がある。

(3)貸出、返却デスク

1 階にある。ノート PC をはじめ、各種メディア機器を個人、授業用に貸し出ししている。また記憶媒体やヘッドフォンも販売している。

(4)オンラインサポート

チャットシステム、電子メールでの問い合わせが可能。図書館のホームページからアクセスするようになっている。

(5)ライティングデスク

d. 教育支援 (3) ライティングセンター 参照

(6)教育支援デスク

d. 教育支援（2）教育支援センター 参照

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室

15室ある。[収容能力] 小：2～3人、中：6～8人、大：14～18人、特大25人
内訳は 小 2室、中 8室、大 4室、特大 1室。

(2)オープンディスカッションスペース

特にスペースは設けられていないが、Quietゾーン以外では話し合い可能。

d. 教育支援

(1)電子教室

2部屋あり。片方は別のキャンパスとの授業も受講できる電子会議システムがある。

(2)教育支援デスク

教員のFD部門である”Center for Teaching and Learning”が図書館に併設されている。

(3)ライティングデスク

あり。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ

あり。ただし、小部屋を階層した簡易なもの。

(2)ホール

なし。

(3)視聴、編集スペース

Digital Media Studio(1階)で スキャナー、動画・映像・音声の編集加工、グラフィック、ウェブ制作データ変換ができるようになっていた。運営は専任職員3人、学生スタッフで行っている（前述のTechnology Support Deskのこと）。

(4)プレゼンテーション・スペース

なし。

f. 滞在支援施設

(1)カフェ

あり。名称は「Ritazza Café」軽食と飲み物を購入して滞在できる。PC（インターネット専用）が併設されている。図書館内からも出入り可能。ただし、貸出手続きがすんでいない資料を持ち出さないように、図書館側からの入口にBDSが設置されている。

(2)飲食スペース

なし。

(3)ラウンジ

なし。

g. 展示・イベント施設

(1)プレゼンテーションスペース

なし。

(2)ギャラリー

なし。

(3)ラウンジ

なし。

VI ラーニングコモンズ構築例

今後の学生は、いわゆるデジタル・ネイティブの世代となる。つまり、生まれた時からインターネットがある世代なので、その指向もネットとの親和性も旧世代とは異なっている。よって、これらの学生に対応するための設備やサービスが必要となるのはいうまでもない。具体的には、快適さ、アクセスのしやすさ、インタラクティブ性は欠かせないものとなる。

さて、この章では、今までの事例と分析さらに図書館の規模を踏まえて提言してみることにする。ここでは、図書館の規模ごとに3つのプランを用意してみた。まず、大規模図書館は、学生数10,000人以上の規模の大学のこと。中規模図書館とは、2,000人から9,999人までの大学の規模の図書館のこと。小規模とは1,999人以下の学生数の図書館とした。LC自体が大学の教育方針によって左右されるので、これらの提言例は、あくまでのその一例と考えてほしい。また、新築または増改築の場合があるがここでは主にLCの要素のどれを取り入れるかという観点からの提言とする。

計画を立てる際に一番重要なことは、この計画が大学の教育目標や図書館のミッションをサポートしていることである。その上で、計画委員会等に図書館の現場の意見が反映されるような仕組みもつくらなければならないし、大学の規模や財政事情等を考慮し作成する必要もある。

なお、事例での提案設備の表記については、断りのない限りPC=Windows, Mac=Macintoshとする。また、施設・サービスの必要度は星マーク（5段階評価）で表している。必要度が高いほど、星マークが多くなるようにしている。

1. 小規模図書館の場合 学生数2,000人以下（1,000人程度を想定）

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース 必要度★★★★★

できる限り、快適に利用できるように、新しいPCが望ましい。ここでいう快適性は、すぐにインターネットにアクセスでき、ストレスのない利用が可能と定義する。また、附属の機器もプラグ&プレイで、利用できるものとする。できれば、用途別のアプリケーションが欲しいが、最低限MS Officeが入っていれば良い。

【提案設備】

デスクトップ：PC または Mac20 台

ノート PC：PC または Mac5 台（館内貸出用）

アプリケーション：MS Office

(2)キオスク端末 必要度★★★

できれば必要である。その理由は、キオスク端末があると、PC スペース混雑を少しでも解消できるからである。キオスク端末の用途はメールのチェック、授業のレジュメの印刷など 10～15 分程度で利用が終わるものを想定している。また、必要な時にすぐ利用できるように、図書館の入口近くに設けることが望ましい。

【提案設備】

デスクトップ：PC または Mac3 台

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク 必要度★★★★★

スタッフの人数が少ないと思われるが、最低限必要である。事例の Pine Manor College も少人数でまかなっていた。もし、図書館側に IT に詳しいものがない場合は、情報系の学生アルバイトを雇用するか、時間を決めて IT センターから派遣してもらうのも一つの手段である。もちろん図書館業務と IT 業務のどちらでも出来るスタッフがいれば心強い。ここで問題になるのは、理系や情報系の学生がいない大学であるが、情報系の科目はどこの大学でも開設されているし、学内外で公募する場合は、IT センターの協力を得て人材を確保することも必要となる。また、情報系の専門以外の学部生の方が、自分の所属する学部学科、コースの学生のニーズがわかるというメリットもある。どちらにしる、雇用の際に採用基準（情報系基礎科目等の履修の有無）を設け、雇用後に OJT で教育をしていく必要がある。

【提案設備】

テクノロジーデスク：1.5 人（時間単位の応援配置を 0.5 人として換算）

(2)レファレンスデスク 必要度★★★★★

レファレンスは簡単なものから難しいものまで程度が分かれる。図書館員が常駐していることが理想。それが難しい場合は、学生スタッフを雇用・教育して担当することも可能である。難しい質問には学生スタッフから専門の図書館員につなげるようにすればよい。

【提案設備】

レファレンスデスク：1.5 人（同じ部署内で兼務することを 0.5 人と換算）

(3)貸出、返却デスク 必要度★★★★★

テクノロジーデスクとレファレンスデスクと分割して設ける必要がある。なぜなら、同じにすると貸出・返却の利用者が多いときに情報技術やレファレンスの質問にまで対応できない可能性が高いからである。待ち時間が少ないことは利用者からの評価も高くなる。なお、小規模図書館の場合は学生スタッフで対応するのがよい。

【提案設備】

学生スタッフ：2 人

(4)オンラインサポート 必要度★

チャット形式での対応は職員数から考えて難しい。従来どおり、メールや電話での対応が望ましい。

【提案設備】

オンラインサポート：1人（レファレンスデスクと兼務）

(5)ライティングデスク 必要度★★★★★

図書館外に設置している大学もあるが、できればキャンパス内で多くの利用者が長時間利用できる図書館内にあることが望ましい。また、レポートや論文の文章力が近年では就職前に求められる能力のひとつとなってきている。そのため、教員からの指導のみではなく、普段から相談でき、書いた文章についてアドバイスやフィードバックがもらえる機会を学生側も求めていると思われ割れる。専任の職員の配置が難しければ、大学院生等の学生スタッフを雇用するとよい。またデスクはレファレンスデスクと統合する。

【提案設備】

ライティングデスク：レファレンスデスクと統合

図書館員1人（レファレンスデスクと兼務）もしくは学生スタッフ1人

(6)教員支援デスク 必要度★

デスクの設置は難しいので、図書館員と学内のFD担当の教員等と連携をして、レファレンスデスクで随時対応する。

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室 必要度★★★★★

学習課題の変化で需要が増している。ガラスの仕切で区切り、外に音が漏れるのを防ぐという工夫をしている。国内でも多数の大学で取り入れられており、ホワイトボードやモニターの備え付けは必須。

【提案設備】

小部屋：3部屋、部屋の大きさは4～12人収容。可動式の机と椅子

中部屋：1室、部屋の大きさは、10～20人収容。可動式の机と椅子

無線LAN

PCまたはMac 1部屋に1台、もしくはノートPCを貸し出すことで対応する。

机の大きさは最低でも資料を広げられる程度にする。

ホワイトボード

(2)オープンディスカッションスペース 必要度★★★★★

オープンスペースでは、家具は、いろいろなタイプを入れる必要がある。例えばソファの前に小さなデスクがある場合や、移動式の机や椅子、低いパーティションで区切られたスペースといった具合である。学生が長時間過ごしても大丈夫なように照明や間取りを含めた居住空間という視点での設計も重要となる。

【提案設備】

4～6名で利用できるスペース：10～20区画

d. 教育支援

(1)電子教室 必要度★★★

ここは、正規の授業、スタッフの研修、情報リテラシーの講座、オリエンテーションといった行事等に使用される施設である。できれば、設置して欲しいが難しい場合は、オープンスペースのコーナーを区切って使うことも視野に入れるとよい。

【提案設備】

PC または Mac : 20~30 台

講師用 PC : 1 台

プロジェクター1 台

スクリーン

ホワイトボード

(2)教員支援センター 必要度★

LC 内のスペースと人材の 2 点から設置は難しい。教員支援デスク（2 - (6) 参照）として部分的にサービスを行う。

(3)ライティングセンター 必要度★

LC 内のスペースと人材の 2 点から設置は難しい。ライティングデスク（2 - (5) 参照）として部分的にサービスを行う。

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ 必要度★★

専用の部屋の設置はスペースの問題から難しい。視聴・編集スペースのグループ用の部屋を代用する。

(2)ホール 必要度★★

LC 内の他の施設（電子教室、ラウンジ、ディスカッションスペースなど）を防音、間仕切りできるようにしておき代用する。

(3)視聴、編集スペース 必要度★★★

映像作品の視聴、語学の勉強や授業用のコンテンツの作成（取材してきた映像、インタビューの音声などの編集）に利用する。個人またはグループで作業することまで想定した環境が求められる。

【提案設備】

ブース（1~3 人）3 区画とグループ（4~6 人）用の部屋 1 室

(4)プレゼンテーションスペース 必要度★★★★

g. 展示、イベント（1）プレゼンテーションスペース参照

f. 滞在支援施設

(1)カフェ 必要度★

飲食スペースを設置してそちらを利用する。

(2)飲食スペース 必要度★★★★★

持ち込んだ飲み物、食べ物を飲食できるスペース。または、飲み物、軽食の自動販売機があること

が理想的。人数にあわせて可動できる椅子や机が望ましい。

【提案設備】

自販機 1台

可動式椅子 5～10脚

机 2台

(3)ラウンジ 必要度★★★

休憩目的なので、座り心地の良い椅子（ソファ）があればよい。なので、ひとところに固める必要はないので、各階のオープンスペースに少しずつソファがあるという展開でも可能。リラックススペースは必要なので、例えば一般雑誌コーナーなどに座りごごちの良いソファを置くことも選択肢のひとつである。

【提案設備】

ソファ 5脚

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース 必要度★★★★

オープンな空間で、予約なく発表をしたい時に空いていれば利用できることが理想。授業もしくは学生のイベント、就職課のイベントなど幅広く利用できる。円形で発表者を囲む、もしくは階段状のスペースが理想。公立はこだて未来大学の例が参考になる。スペースの確保が難しければラウンジやギャラリーと兼用でも可能。

【提案設備】

プレゼンテーションスペース：1区画（ラウンジやギャラリーと兼用でも可）

(2)ギャラリー 必要度★★

プレゼンテーションスペース、ラウンジのスペース、壁面を利用する。

(3)ラウンジ 必要度★★★

休憩目的なので、座り心地の良い椅子（ソファ）があればよい。そのため、一カ所に固める必要はないので、各階のオープンスペースに少しずつソファがあるという展開でも可能。リラックススペースは必要なので、例えば一般雑誌コーナーなどに座りごごちの良いソファを置くことも選択肢のひとつである。LC 内にスペースの確保が難しければ、プレゼンテーションスペースやギャラリーとの兼用でも構わない。

【提案設備】

ソファ 5脚

2 中規模図書館の場合 学生数 2,001～9,999 人以下(今回は、5,000 人程度を想定)

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース 必要度★★★★★

できる限り、快適に利用できるように、新しい PC が望ましい。ここでいう快適性は、すぐにイン

ターネットにアクセスでき、ストレスのない利用が可能と定義する。また、附属の機器もプラグ&プレイで、利用できるものとする。できれば、用途別にアプリケーションをインストールする。

【提案設備】

デスクトップ：PC または Mac150 台

ノート PC：PC または Mac30 台（館内貸出用）

アプリケーション：MS Office, Photoshop, Illustrator, Premiere, Dreamweaver
Final Cut Pro など

(2)キオスク端末 必要度★★

キオスク端末があれば、PC スペース混雑を少しでも解消できるからである。キオスク端末の用途はメールのチェック、授業のレジュメの印刷など 10～15 分程度で利用が終わるものを想定している。また、必要な時にすぐ利用できるように、図書館の入口近くに設けることが望ましい。

【提案設備】

デスクトップ：PC または Mac5～10 台

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク 必要度★★★★★

アプリケーションの使用法からトラブルの処理まで幅広く行える人材が必要となる。最低でも 1～2 人以上は必要。北米の大学では、簡単な質問対応や時間外は学生スタッフが担当していることが多い。ここで問題になるのは、理系や情報系の学生がいない大学であるが、情報系の科目はどこの大学でも開設されているし、学内外で公募する場合は、IT センターの協力を得て人材を確保することも必要となる。また、情報系以外の学部生の方が、自分の所属する学部学科、コースの学生のニーズがわかるというメリットもある。どちらにしろ、雇用の際に採用基準（情報系基礎科目等の履修の有無）を設け、雇用後に OJT で教育をしていく必要がある。

【提案設備】

テクノロジーデスク：情報支援部門の職員 1～2 人 および、学生スタッフ 1～2 名

ノート PC または Mac：2 台

(2)レファレンスデスク 必要度★★★★★

レファレンスは簡単なものから難しいものまで程度が分かれる。そのため図書館員が常駐していることが理想。それが難しい場合は、学生スタッフを雇用・教育して担当することも可能。難しい質問には学生スタッフから専門の図書館員につなげるようにすればよい。また、同じ部署内に担当の図書館員をサポートできる図書館員が 2～3 人いることが望ましい。

【提案設備】

レファレンスデスク

図書館員 1 人 または 学生スタッフ 2 人

(3)貸出、返却デスク 必要度★★★★★

テクノロジーデスクとレファレンスデスクと分割して設ける必要がある。中規模以上の図書館では、専用デスクを設けたほうが良い。なぜなら、同じにすると貸出・返却の利用者が多いときに情報技術やレファレンスの質問にまで対応できない可能性が高いからである。待ち時間が少ないことは利用者

からの評価も高くなる。なお、学生スタッフでも対応可能である。

【提案設備】

貸出、返却デスク

担当職員：2人 または 学生スタッフ2人

(4)オンラインサポート 必要度★★★★

上記のテクノロジーデスクやレファレンスデスクでもチャットやメールによるサポートを行うことですばやく利用者からの質問に回答することが可能となる。訪問した北米の大学図書館では、ほぼ全てのところで採用されていた。図書館のホームページのトップページからすぐ分かる箇所に利用方法が紹介されている例が多い。なお、専門の担当者を置くのは図書館員の全体人数から難しい場合は、リーダーを決めたいうえで複数名で兼務することで解決ができる。担当者は対応できるときに持ち回りで担当すればよい。

【提案設備】

オンラインサポート

図書館員：1～2人（他の業務と兼務）

(5)ライティングデスク 必要度★★★★★

図書館外に設置している大学もあるが、できればキャンパス内で多くの利用者が長時間利用できる図書館内にあることが望ましい。Simmons Collegeは昨年、学外から図書館内へ移設した。これは利用者の利便性を考慮したものである。また、レポートや論文の文章力が近年では就職前に求められる能力のひとつとなってきている。そのため、教員からの指導のみではなく、普段から相談でき、書いた文章についてアドバイスやフィードバックがもらえる機会を学生側も求めていると思われる。

LC内のスペースには余裕がないことが考えられるのでレファレンスデスクに統合する。

【提案設備】

レファレンスデスクに統合

PCまたはMac：2台（ノートPCが望ましい）

ホワイトボード

可動式の机、椅子

(6)教員支援デスク 必要度★★★

就職前にある程度の知識・技能を備えた学生を輩出するためには、学部教育の内容・方法の見直しが求められている。そのために、FD支援のための教員支援デスクは、今後、必須のサービスである。情報技術と授業設計の知識をもったインストラクショナルデザイナーという専門職が必要である。それが難しい場合は、IT系の職員と授業設計を専門とする（もしくは詳しい）研究者の協力が必要。もし、LC内のスペースに余裕があれば、1部屋確保する。それが難しければ、レファレンスデスクの横に設置してスタッフが対応するといった形でも良い。

【提案設備】

パーティションで仕切られた部屋またはレファレンスデスクに統合

PCまたはMac：2台（ラップトップが望ましい）

ホワイトボード

可動式の机、椅子

c. 共同作業環境

(1) グループ学習室 必要度★★★★★

学習課題の変化で需要が増している。ガラスの仕切で区切り、外に音が漏れるのを防ぐという工夫をしている。国内でも多数の大学で取り入れられており、ホワイトボードやモニターの備え付けは必須。

【提案設備】

小部屋：10～15 部屋、部屋の大きさは 4～12 人収容。可動式の机と椅子

大部屋：1 室、部屋の大きさは、20～30 人収容。可動式の机と椅子

無線 LAN

PC または Mac 1 部屋に 1 台、もしくはノート PC を貸し出すことで対応する。

椅子は用途に応じて、ソファも。机の大きさは最低でも資料を広げられる程度にする。

ホワイトボード

(2) オープンディスカッションスペース 必要度★★★★★

オープンスペースでは、家具は、いろいろなタイプを入れる必要がある。例えばソファの前に小さなデスクがある場合や、移動式の机や椅子、低いパーティションで区切られたスペースといった具合である。学生が長時間過ごしても大丈夫なように照明や間取りを含めた居住空間という視点での設計も重要となる。

【提案設備】

4～6 名で利用できるスペース：20～30 区画

d. 教育支援

(1) 電子教室 必要度★★★

ここは、正規の授業、スタッフの研修、情報リテラシーの講座、オリエンテーションといった行事等に使用される施設である。大規模図書館であれば最低 1～2 室ぐらいは必要となる。

【提案設備】

PC または Mac：30 台

講師用 PC：1 台

プロジェクター 1 台（固定式）

スクリーン

ホワイトボード

(2) 教員支援センター 必要度★★★

主に、教員が教材を作成したり、e ラーニングを授業と併用したりするといったコンテンツ作成のために使用する施設である。北米の LC には数多く併設されていた。日本における図書館内への設置例は、ほとんどないと推測されるが、LC が学生のためだけではなく、LC に備えている機器設備、サービスを使うような講義をする教員の授業力の向上にも役立つ施設ということをアピールするためにも必要な施設である。

【提案設備】

教員支援センター：1～2 部屋（事務室兼メディア編集の作業室、会議室など）

職員：インストラクショナルデザイナー 1～2 人

難しければ、IT 系職員：1 人、授業設計を専門とする（もしくは詳しい）研究者：1 人

PC または Mac：3 台、タブレット PC 2 台

スキャナー：1 台

デジタルビデオ、カメラ

アプリケーション：Office, Photoshop, Illustrator, Dreamweaver, Keynote

(3)ライティングセンター 必要度★★★

学習の成果物であるレポートや論文作成の支援がその目的で年々重要度が増している。大学によっては、LC 内デスクのみと言うところもあるが、論文レポートの一般的な書き方についての支援が中心となるので、スペースがあるのなら落ち着いた環境がよりふさわしい。また、ライティング講習会の開催も求められる。もし、LC 内のスペースに余裕があれば、1 部屋確保する。それが無理なら、レファレンスデスクの横に設置してスタッフが対応するといった形でも良い。

【提案設備】

パーティションで仕切られた部屋またはレファレンスデスクに統合

PC または Mac：1 台（ノート PC が望ましい）

ホワイトボード

可動式の机、椅子

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ 必要度★★

スタジオは、主に映像の撮影・編集を行う。例えば e ラーニングや WEB サイト用の素材を作成する際に防音や照明が完備されているこのような施設は必須である。映像の専門コースや学科があるのであれば、神田外語大学 SACLA や大手前大学のメディアライブラリーCELL のような本格的なスタジオが理想的である。そうでなければ、簡易なスタジオ・編集機材でも代替が可能。

【提案設備】

ビデオカメラ

画像合成装置

照明

マイク

録音装置

(2)ホール 必要度★★

ホールがあると LC を利用して作成した成果を学内もしくは地域のコミュニティに対して発表する場として利用できる。

【提案設備】

ホール（50～100 人） 1 室

(3)視聴、編集スペース 必要度★★

映像作品の視聴、語学の勉強や授業用のコンテンツの作成（取材してきた映像、インタビューの音

声などの編集)に利用する。個人またはグループで作業することまで想定した環境が求められる。

【提案設備】

ブース (1人) 10区画もしくは、ブース (2~3人) 5区画とグループ (4~6人) 用の部屋 2~3室

(4)プレゼンテーションスペース 必要度★★★★

g. 展示、イベント (1) プレゼンテーションスペース 参照

f. 滞在支援施設

(1)カフェ 必要度★★★

軽食が食べられる程度のカフェが理想。周辺的环境や、スペースの問題があるので、個々の大学の状況で判断することが必要。ただし、スペースの問題があるので、個々の大学の状況による。

【提案設備】

ブース (2~3人) 10テーブル

(2)飲食スペース 必要度★★★★★

持ち込んだ飲み物、食べ物を飲食できるスペース。または、飲み物、軽食の自動販売機があることが理想的。人数にあわせて可動できる椅子や机が望ましい。

【提案設備】

可動式机 5台

可動式椅子 20脚

自販機 2台

(3)ラウンジ 必要度★★★

休憩目的なので、座り心地の良い椅子(ソファ)があればよい。なので、ひとところに固める必要はないので、各階のオープンスペースに少しずつソファがあるという展開でも可能。

【提案設備】

ソファ 10脚

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース 必要度★★★★★

オープンな空間で、予約なく発表をしたい時に空いていれば利用できることが理想。授業もしくは学生のイベント、就職課のイベントなど幅広く利用できる。発表者が目立つようになっていることが理想。円形で発表者を囲む、もしくは階段状のスペースが理想。公立はこだて未来大学の例が参考になる。

【提案設備】

プレゼンテーションスペース：1~2区画(人通りが多いところが理想)

(2)ギャラリー 必要度★★★

制作物の発表という点からみるとギャラリーは重要である。つまり同じく発表の場であるプレゼンテーションのスペースが「動」であれば、ここは「静」のスペースであると言うことができるからである。

【提案設備】

ギャラリー：1スペース

ボード：1スペース分

(3)ラウンジ 必要度★★★

ラウンジは、休憩のスペースだが、例えば壁際に展示物をかけるとミニギャラリーとなる。また、一般雑誌がおいてあるところにソファを置くのも良い考えといえる。

【提案設備】

ソファ：10脚

ボード：1スペース分

3. 大規模図書館の場合 学生数 10,000 人以上(今回は、10,000 人をベースとした)

a. テクノロジー支援

(1)PCスペース 必要度★★★★★

できる限り、快適に利用できるように、新しい PC が望ましい。ここでいう快適性は、すぐにインターネットにアクセスでき、ストレスのない利用が可能と定義する。また、附属の機器もプラグ&プレイで、利用できるものとする。できれば、用途別にアプリケーションをインストールする。

【提案設備】

デスクトップ：PCまたはMac300台

ノートPC：PCまたはMac50台（館内貸出用）

アプリケーション：MS Office, Photoshop, Illustrator, Premiere, Dreamweaver
Final Cut Pro, Keynote など

(2)キオスク端末 必要度★★★

できれば必要である。その理由は、キオスク端末があると、PCスペースの混雑を少しでも解消できるからである。キオスク端末の用途はメールのチェック、授業のレジュメの印刷など 10～15 分程度で利用が終わるものを想定している。また、必要な時にすぐ利用できるように、図書館の入口近くに設けることが望ましい。

【提案設備】

デスクトップ：PCまたはMac20台

b. 利用者支援

(1)テクノロジーデスク 必要度★★★★★

アプリケーションの使用法からトラブルの処理まで幅広く行える人材が必要となる。運営の時間によるが、最低でも 4 人以上は必要。北米の大学では、大学院生のアルバイトが担当している場合が多い。ここで問題になるのは、理系や情報系の学生がいない大学であるが、情報系の科目はどこの大学でも開設されているし、学内外で公募する場合は、ITセンターの協力を得て人材を確保することも必要となる。また、情報系以外の学部生の方が、自分の所属する学部学科、コースの学生のニーズがわかるというメリットもある。どちらにしろ、雇用の際に採用基準（情報系基礎科目等の履修の有無）を設け、雇用後に OJT で教育をしていく必要がある。

【提案設備】

テクノロジーデスク 担当職員：4人（専任職員1～2名、学生スタッフ2～3名）

(2)レファレンスデスク 必要度★★★★

レファレンスは簡単なものから難しいものまで程度がわかる。図書館員が常駐していることが理想。それが難しい場合は、窓口を学生スタッフを雇用・教育して担当することも可能。難しい質問には学生スタッフから専門の図書館員につなげるようにすればよい。

【提案設備】

レファレンスデスク

図書館員：2人 もしくは、学生スタッフ2人

(3)貸出、返却デスク 必要度★★★★

テクノロジーデスク、レファレンスデスクと分割したほうが良い。なぜなら、同じにすると貸出・返却の利用者が多いときに情報技術やレファレンスの質問にまで対応できない可能性が高いからである。待ち時間が少ないことは利用者からの評価も高くなる。なお、学生スタッフでも対応可能である。

【提案設備】

貸出、返却デスク

図書館員：2人 もしくは、学生スタッフ2人

(4)オンラインサポート 必要度★★★★

上記のテクノロジーデスクやレファレンスデスクでもチャットやメールによるサポートを行うことですばやく利用者からの質問に回答することが可能となる。訪問した北米の大学図書館では、ほぼ全てのところで実施されていた。図書館のホームページのトップページからすぐ分かる箇所に利用方法が紹介されている例が多い。

【提案設備】

オンラインサポート

図書館員：2人 もしくは、学生スタッフ2人

(5)ライティングデスク 必要度★★★★★

図書館外に設置している大学もあるが、できればキャンパス内で多くの利用者が長時間利用できる図書館内にあることが望ましい。Simmons Collegeは昨年、学外から図書館内へ移設した。これは利用者の利便性を考慮したものである。また、レポートや論文の文章力が近年では就職前に求められる能力のひとつとなってきた。そのため、教員からの指導のみではなく、普段から相談でき、書いた文章についてアドバイスやフィードバックがもらえる機会を学生側も求めていると思われる。

【提案設備】

ライティングデスク

担当職員：2人

(6)教員支援デスク 必要度★★★

就職前にある程度の知識・技能を備えた学生を輩出するためには、学部教育の内容・方法の見直しが必要とされている。そのため、FD支援のための教員支援デスクは、今後、必須のサービスである。情報技術と授業設計の知識をもったインストラクショナルデザイナーという専門職が必要である。それが難しい場合は、IT系の職員と授業設計を専門とする（または詳しい）研究者の協力が必要。

【提案設備】

教員支援デスク

インスタラクショナルデザイナー 2～3人

難しければ、IT系職員：2人、授業設計を専門とする（または詳しい）研究者：1人

c. 共同作業環境

(1)グループ学習室 必要度★★★★★

学習課題の変化で需要が増している。ガラスの仕切で区切り、外に音が漏れるのを防ぐという工夫をしている。国内でも多数の大学で取り入れられており、ホワイトボードやモニターの備え付けは必須。

【提案設備】

小部屋：30部屋、部屋の大きさは4～12人収容。可動式の机と椅子

大部屋：2室、部屋の大きさは、20～30人収容。可動式の机と椅子

無線LAN

PCまたはMac 1部屋に1台、またはノートPCを貸し出すことで対応する。

椅子は用途に応じて、ソファも。机の大きさは最低でも資料を広げられる程度にする。

ホワイトボード

(2)オープンディスカッションスペース 必要度★★★★★

オープンスペースでは、家具は、いろいろなタイプを入れる必要がある。例えばソファの前に小さなデスクがある場合や、移動式の机や椅子、低いパーティションで区切られたスペースといった具合である。学生が長時間過ごしても大丈夫なように照明や間取りを含めた居住空間という視点での設計も重要となる。

【提案設備】

4～6名で利用できるスペース：4～50区画

d. 教育支援

(1)電子教室 必要度★★★

ここは、正規の授業、スタッフの研修、情報リテラシーの講座、オリエンテーションといった行事等に使用される施設である。大規模図書館であれば最低2～3室ぐらいは必要となる。

【提案設備】

PCまたはMac：30台

講師用PC：1台

プロジェクター1台（固定式）

スクリーン

ホワイトボード

(2)教員支援センター 必要度★★★★

主に、教員が教材を作成したり、eラーニングを授業と併用したりするといったコンテンツ作成のために使用する施設である。北米のLCには数多く併設されていた。日本における図書館内への設置

例は、ほとんどないと推測される。しかし、LC が学生のためだけでなく、LC に備えている機器設備等を利用して講義に役立つことが出来ることを教員に知ってもらうためにも必要な施設である。

【提案設備】

教員支援センター：2～3 部屋（事務室、メディア編集の作業室、会議室など）

職員：インストラクショナルデザイナー 2～3 人

難しければ、IT 系職員：2 人、授業設計を専門とする（もしくは詳しい）研究者：1 人

PC または Mac：5 台、タブレット PC2 台

スキャナー：1 台

デジタルビデオ、カメラ

アプリケーション：Office, Photoshop, Illustrator, Dreamweaver, Keynote

(3)ライティングセンター 必要度★★★

学習の成果物であるレポートや論文作成の支援が設置目的であり、年々重要度が増している。大学によっては、LC 内デスクのみと言うところもあるが、論文レポートの一般的な書き方についての支援が中心となるので、スペースがあるのなら落ち着いた環境がよりふさわしい。また、ライティング講習会の開催も求められる。

【提案設備】

PC または Mac：2 台（ノート PC が望ましい）

ホワイトボード

可動式の机、椅子

担当職員：2 人

e. 視聴覚スペース

(1)スタジオ 必要度★★

スタジオは、主に映像の撮影・編集を行う。例えば e ラーニングや WEB サイト用の素材を作成する際に防音や照明が完備されているこのような施設は必須である。神田外語大学 SACLA や大手前大学のメディアライブラリーCELL のような本格的なスタジオが理想的である。

【提案設備】

ビデオカメラ

画像合成装置

照明

マイク

録音装置

(2)ホール 必要度★★

ホールであれば LC を利用して作成した成果を学内または地域のコミュニティに対して発表する場として利用できる。

【提案設備】

ホール（50～200 人） 1 室

(3)視聴、編集スペース 必要度★★★

映像作品の視聴、語学の勉強や授業用のコンテンツの作成（取材してきた映像、インタビューの音声などの編集）に利用する。個人またはグループで作業することまで想定した環境が求められる。

【提案設備】

ブース（1人）20区画もしくは、ブース（2～3人）15区画とグループ（4～6人）用の部屋5室

(4)プレゼンテーションスペース

g. 展示、イベント（1）プレゼンテーションスペース 参照

f. 滞在支援施設

(1)カフェ 必要度★★★

軽食が食べられる程度のカフェが理想。周辺の環境や、スペースの問題があるので、個々の大学の状況で判断することが必要となる。

【提案設備】

ブース（2～3人）20テーブル

(2)飲食スペース 必要度★★★★★

持ち込んだ飲み物、食べ物を飲食できるスペース。または、飲み物、軽食の自動販売機があることが理想的。人数にあわせて可動できる椅子や机が望ましい。

【提案設備】

可動式机 10台

可動式椅子 30台

自販機 2台

(3)ラウンジ 必要度★★★

休憩目的なので、座り心地の良い椅子（ソファ）があればよい。なので、ひとところに固める必要はないので、各階のオープンスペースに少しずつソファがあるという展開でも可能。

【提案設備】

ソファ 20脚

g. 展示、イベント

(1)プレゼンテーションスペース 必要度★★★★★

オープンな空間で、予約なく発表をしたい時に空いていれば利用できることが理想。授業もしくは学生のイベント、就職課のイベントなど幅広く利用できる。円形で発表者を囲む、または階段状のスペースが理想。公立はこだて未来大学の例が参考になる。

【提案設備】

プレゼンテーションスペース：2～3区画（人通りが多いところが理想）

(2)ギャラリー 必要度★★★

制作物の発表という点からみるとギャラリーは重要である。つまり同じく発表の場であるプレゼンテーションのスペースが「動」であれば、ここは「静」のスペースであると言うことができるからである。

【提案設備】

ギャラリー：1 スペース

ボード：1 スペース分

(3)ラウンジ 必要度★★★

ラウンジは、休憩のスペースだが、例えば壁際に展示物をかけるとミニギャラリーとなる。

【提案設備】

ソファ：20 脚

ボード：1 スペース分

Ⅶ まとめ

ここまで、大規模、中規模、小規模の大学の事例を紹介し、規模別のモデルケースを提示した。結論をまとめると、LC を企画・提供するためには次の4つのポイントが重要といえる。

- ①各大学に共通した正解はない。答えは「学生および教員の学習・教育活動とそれに対するサービス」をどうするかという視点にある。
- ②肝心なものはサービスとサポート。それを提供するために施設・機器をどうするか。
- ③他部署との連携の必要性。
- ④融通性(フレキシビリティ)をもったサービス・施設計画の重要性。

①各大学に共通した正解はない。答えは「学生および教員の学習・教育活動とそれに対するサービス」をどうするかという視点にある。

これまでの事例で紹介してきたとおり、実験的な施設をのぞき、各大学ともそれぞれの学生・教員の学習・研究活動にあわせたサービスを提供している。まず、建物や施設に目が向いてしまいがちだが、答えはそこにはない。まずは、使う側の学生・教員の学習・研究活動の現状を見つめなおす必要がある。その際には例えば、教務課、情報処理センター、FD の担当部署、教育開発支援センター、学習支援センターの担当者に現在の学習・教育活動の状況をヒアリングするとよい。

②肝心なものはサービスとサポート。それを提供するために施設・機器をどうするか。

①のヒアリングをすると、学生、教員が必要としているサービスが見えてくる。そこで、そのために施設・機器がどのように提供されているか現状を確認する。その場合は、学生・教員の視点にたつ必要がある。つまり、図書館だけではなく、キャンパス全体でどのような施設・機器（広さ、数）がどのように（場所、利用可能時間）提供されているかが重要な点である。導線も肝心のポイントであるため、例えば学生が必ず立ち寄る場所（学部掲示板、学生ホール等）を基点に、対象の施設までにかかる時間も考える必要がある。

③他部署との連携の必要性。

事例で紹介をしたように、中小規模大学では、他部署との連携が必ず必要となる。反対にいうと、

旧来の施設の配置方式は、「役所で窓口をたらい回しにされるようなもの」といえる。学生にとっては、欲しいのは「サービス」であって、どの部署が運営をしているかは問題ではない。

④融通性(フレキシビリティ)をもったサービス・施設計画の重要性。

大学および図書館を取り巻く環境(教育、IT事情)が多様化するため、今後も随時、さまざまなニーズに対応することが求められる。

そのために、変化に「俊敏に対応」できるよう、融通性を備えたサービスや施設づくりが大切である。LCは大学と利用者とともに成長をしていくものである。

特に、施設をつくる場合は増改築や更新、用途変更、間仕切り変更などに対して、柔軟に対応できる「自由度」の確保が必要である。視察先の北米の図書館で、「LCをつくる際の重要なポイントは何か」と尋ねたところ、どの担当者も口をそろえて「融通性」の重要性を教えてくれた。

以上のように、まずは各大学で学習・教育活動の現状とそれに対するサービス状況について自己点検することをすすめる。そして、それから具体的に細部を検討していく必要がある。

図書館へのLCの設置については、新築するのが理想的であるが、実際は難しい場合が多いだろう。既存の図書館内での改修、増築による対応が現実的である。そこで、大事なのが①と②で調べたポイントとなる。IT設備、テクノロジーサポート、ライティングセンター、ホール、スタジオ、カフェ等のLCの構成要素が既に学内で提供されているのではないだろうか。これらの規模、位置、運営組織を整理し、図書館内部に必要なものを検討する必要がある。また、これらのサービスの一部を図書館の内部へ移設してくることで、効果を発揮することも多い。また、設備の配置を変更することや運用のルールを少し変更することも有効である。

いずれにしても、講義も含めた教育活動の中で、学生、教員がLCを活用する仕組み作りが重要となる。LCの構築に伴い、学生スタッフも含めた職員の育成、講義へのサポートの提供、大学の規模、教育方針に従い、各大学にあったものを考え、選んでもらいたい。

なお、今回の視察先を中心とした、LC紹介のウェブサイトを開設する予定(2011年9月頃)にしている。写真、動画はそちらを参考にしてほしい。

<参考資料>

1. WEBサイト <最終確認日:2011年5月20日>

神田外語大学 <http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

神田外語大学 SACLA <http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/sacla/index.html>

京都大学 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja>

京都大学 環 on <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/wa-on/top.html>

お茶の水女子大学 <http://www.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学附属図書館 <http://www.lib.ocha.ac.jp/>

東京女子大学 <http://www.twcu.ac.jp/>

東京女子大学図書館 <http://library.twcu.ac.jp/>

東京女子大学 学生支援 GP マイライフマイライブラリー http://library.twcu.ac.jp/sogo/gp_syosai.htm
東京大学 駒場アクティブラーニングスタジオ <http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/>
公立はこだて未来大学 <http://www.fun.ac.jp/>
Brooklyn College <http://www.brooklyn.cuny.edu/pub/index.php>
Brooklyn College Library <http://library.brooklyn.cuny.edu/>
Pine Manor College <http://www.pmc.edu/>
Pine Manor College Annenberg Library <http://www.pmc.edu/library>
Minuteman Library Network <http://library.minlib.net/search/>
Brooklyn College Library <http://www.brooklyn.cuny.edu/pub/library.htm>
New York University Bobst Library <http://library.nyu.edu/>
Pine Manor College Annenberg Library <http://www.pmc.edu/library>
Simmons College Bratley Library <http://www.simmons.edu/library/>
University of Southern California Leavey Library <http://www.usc.edu/leavey/>
California State University San Marcos Library <http://biblio.csusm.edu/>
Georgia Institute of Technology Library <http://www.library.gatech.edu/>
Emory University Library <http://web.library.emory.edu/>
The University of North Carolina at Charlotte, J. Murrey Atkins Library <http://library.uncc.edu>
Elon University, Carol Grotnes Belk Library <http://www.elon.edu/e-web/library/>

2. 雑誌記事、論文

上田直人、長谷川豊祐「わが国の大学図書館におけるラーニング・コモنزの事例研究」名古屋大学附属図書館研究年報, 7, p47-62, 2008.
米澤誠「インフォメーション・コモنزからラーニング・コモنزへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」カレントアウェアネス, 289, p9-12, 2006,
ジョー・マイナード「神田外語大学 Self-Access Learning Centre 」IAAL ニュースレター, 3, p7-8, 2009.
橋本晴美「東京女子大学図書館における学生支援 GP 事業の展開 —マイライフ・マイライブラリー：学生の社会的成長を支援する滞在型図書館プログラム—」図書館雑誌, 102(11), p770-773, 2008
「話せる図書館『環 on』オープン」静脩, 45(1), p.10, 2008.
「話せる図書館『環 on』を開館」京大広報, 634, p.2637, 2008.
餌取直子、茂出木理子「お茶の水女子大学附属図書館における学習・教育支援サービスのチャレンジ：図書館の学習・教育支援サービスに限界はない」大学図書館研究, 83, p.11-18, 2008.
茂出木理子「ラーニング・コモنزの可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ」情報の科学と技術, 58(7), p341-346, 2008.
小坪守「情報リテラシーとラーニング・コモنز：日米大学図書館における学習支援」情報の科学と技術, 59,(7), p1-6
永田治樹「大学図書館における新しい『場』インフォメーション・コモنزとラーニング・コモنز」名古屋大学附属図書館研究年報, 7, p3-14, 2008.

3. 図書、論文集

加藤信哉編訳「ラーニング・コモンズ基本論文集」正文社, 2010年.

山内祐平、美馬のゆり『『未来の学び』をデザインする』東京大学出版会, 2005年.

山内祐平編著 ; 林一雅 [ほか]「学びの空間が大学を変える : ラーニングスタジオ, ラーニングコモンズ, コミュニケーションスペースの展開」ポイックス, 2010年.

工藤和美監修「学校を変えよう! : 最先端の学校建築・教育現場を探せ!!」エクスナレッジ, 2008年.

赤木かん子「読書力アップ! 学校図書館のつくり方」光村図書出版, 2010

建築思潮研究所編「建築設計資料 108 大学施設 — 高度化・多様化・市民に聞く」建築資料研究社, 2007.

Barbara Schader, *Learning Commons : Evolution and Collaborative Essentials*, Chandos Publishing, 2008

Donald Robert Beagle, *The Information Commons Handbook*, Neal-Schuman Publishers, 2004.

William W. Sannwald, *Checklist of Library Building Design Considerations*, Fifth Edition, American Library Association, 2008.

McCarthy, Richard C. *Managing Your Library Construction Project : A Step-by-step Guide*, American Library Association, 2007.

Cheryl Bryan, *Managing Facilities for Results Workforms: Optimizing Space for Services*, American Library Association, 2004.

D. Russell Bailey and Barbara Gunter Tierney, *Transforming Library Service Through Information Commons: Case Studies for the Digital Age*, American Library Association, 2008.